

2017年7月26日

藤沢市教育委員会教育長 様

藤沢市教科用図書採択審議委員会
委員長 高谷 潔

平成30年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について（答申）

藤沢市教科用図書採択審議委員会（以下審議委員会という）では、平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書及び、平成30年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について、教育委員会の諮問に基づき、審議方針を定め、次の3つの「基本的な考え方」に基づき、2回にわたり審議してきました。

- （1）「平成30年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」に基づき審議する。
- （2）平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書の調査研究を小学校学習指導要領に基づいて行わせるために、調査員を置き、調査資料を提出させる。
- （3）「小学校『特別の教科 道徳』に係る平成30年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「平成30年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき、調査研究した資料等を基に審議する。その内容を教育長に答申する。

その結果を以下のとおり答申いたします。

1 審議経過及び内容

6月1日 第1回審議委員会

- ・平成30年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針について

7月12日 第2回審議委員会

- ・平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書について
- ・平成30年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について
- ・平成30年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について

2 審議の結果

- （1）平成30年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針について

- ・別紙1のとおり

- （2）平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書についての審議結果及び平成30年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書についての審議結果

- ・別紙2のとおり

別紙 1

平成 3 0 年度使用藤沢市教科用図書採択審議 委員会の審議方針について

平成３０年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議方針について

本審議委員会は、教育委員会の諮問に基づき、平成３０年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の方針を次のように定める。藤沢市立小学校・特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級で使用する教科用図書について、次の観点に基づいて審議を行い、その内容を教育長に答申する。

１ 基本的な考え方

- (1) 「平成３０年度使用藤沢市教科用図書の採択方針」に基づき審議する。
- (2) 平成３０年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書の調査研究を小学校学習指導要領に基づいて行わせるために、調査員を置き、調査資料を提出させる。
- (3) 「小学校『特別の教科 道徳』に係る平成３０年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「平成３０年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」に基づき、調査研究した資料等を基に審議する。その内容を教育長に答申する。

２ 審議委員会日程

(1) 平成３０年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会日程

- ア 平成２９年６月から７月にかけて平成３０年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書並びに、平成３０年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議を２回行う。
- イ 第１回は、審議方針等を審議する。
- ウ 第２回は、平成３０年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書並びに、平成３０年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書を審議する。

(2) 調査員作業日程

- ア 平成２９年６月中に平成３０年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書の調査研究のために、調査員をおき、作業を行わせる。
- イ 調査員作業では、調査研究方法の確認をし、平成３０年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書見本等を基に調査研究を行わせ、調査資料を作成させる。

３ 提出させる資料

- (1) 調査員による調査資料を審議委員会に提出させる。
- (2) 事務局に各小学校長からの平成３０年度使用小学校用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (3) 事務局に該当校長からの特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書をまとめさせ、審議委員会に提出させる。

- (4) 事務局に各小学校移動展示時と藤沢郵便局展示時の保護者・市民の意見・感想をまとめさせ、審議委員会に提出させる。
- (5) 教科書目録、学習指導要領、平成30年度使用小学校用教科用図書見本、教科書編修趣意書、平成30年度義務教育諸学校使用教科用図書の採択方針（「小学校『特別の教科 道徳』に係る平成30年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点」及び「平成30年度使用特別支援教育関係教科用図書調査研究の観点」を含む）、教科用図書調査研究の結果を資料として使用する。

4 調査作業の時限非公開

- (1) 静ひつな調査研究の環境確保のため、調査作業及びその調査員氏名については非公開として行わせる。
- (2) 審議の透明性を確保するため、調査員氏名については、調査作業後、審議委員会において公開する。

別紙 2

平成 3 0 年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科
用図書についての審議結果及び平成 3 0 年度使用特
別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学
級用教科用図書についての審議結果

第2回平成30年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

平成29年7月12日（水）9時30分～

委員長 皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、また大変お暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

委員長の高谷と申します。よろしくお願いします。

まず、会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴券の裏をごらんください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださいますようお願いいたします。

なお、この会議は公開であるとともに、審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただいています。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条第2項の規定にあります委員の半数以上の出席要件を満たしておりますので、ただいまより第2回平成30年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

それでは、本日の次第をごらんください。今回審議いただく内容は、議題1「平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書について」、議題2「平成30年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」、そして議題3「平成30年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の3点でございます。

まず初めに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づきまして、会議録署名委員を指名いたします。

委員長のほかに、前回に引き続き今回も金子委員にお願いしたいと思いますが、金子委員、よろしいでしょうか。

金子委員 はい、承りました。

委員長 では、金子委員、よろしくお願いします。ありがとうございます

ます。

続いて、本日の資料について事務局より説明していただきます。事務局の方、お願いします。

事務局

それではまず、議題１の「特別の教科 道徳」に係る資料について御説明いたします。

第１回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました４点の資料について御説明いたします。

１点目は、県より報告されました「小学校「特別の教科 道徳」に係る小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の結果」です。これは県の選定審議会のもとに置かれた専門調査委員会が調査研究した結果でありまして、選定審議会を経まして、県教育委員会から本市教育委員会へと送付されたものでございます。

２点目は、本審議委員会のもとに置かれました調査員によって作成されました「小学校「特別の教科 道徳」に係る小学校用『調査資料』」です。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し十分な経験と知識を有する者のうちから、本市教育委員会が調査員として８名を任命し、調査研究した結果をまとめたものでございます。なお、今回、調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、調査資料の最終ページに記載してございます。

３点目は、「平成３０年度使用教科用図書調査書まとめ」です。これは、各小学校長が自校の教師に、県の調査研究の観点に沿って調査研究させた「平成３０年度使用教科用図書調査書」をもとに事務局でまとめたものです。各学校が調査の各観点に沿って、当てはまると思われる発行者に丸をつけたものを集計し、一覧にしたものと、「特別の教科 道徳」に係る観点及び自校の児童の実態や地域等の特性との関連の観点について、そ

の教科書が適切である理由として、各学校が記述した内容を発行者ごとにまとめ、一覧にしたものです。

4点目は、「平成30年度使用教科用図書意見書まとめ（概要版）」です。これは、市民及び保護者向けに各小学校及び藤沢郵便局において教科書展示会を開催した際にいただいた意見、感想の概要を事務局でまとめたものでございます。なお、平成30年度使用教科用図書調査書と平成30年度使用教科用図書意見書は、簿冊としてサイドテーブルのほうに、平成30年度、藤沢市で使用が予定される「特別の教科 道徳」教科用図書見本とあわせて展示をしてございます。

そのほか、特別支援学校、特別支援学級用の教科用図書に係る資料については、後ほどまた御説明させていただきます。

以上でございます。

委員長 事務局、ありがとうございました。ただいまの資料等の説明について何かご質問はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、質問がないようですので、これから4、議事に入ります。

まず、議題1「平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書について」審議してまいります。

今年度は、平成30年度、31年度の2年間、小学校「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択が行われることになっています。調査員がまとめました調査資料及び小学校の調査書のまとめ、また、県より出されました教科用図書調査研究の結果等をもとに審議を進めていきたいと思っております。これから審議をしてまいりたいと思っておりますが、委員の皆さん、審議の進行について何かご意見とかはございますでしょうか。岡委員、お願いし

ます。

岡委員 各学校で今回調査研究した折には、7つの観点に沿って細かく調査いたしましたけれども、市の調査員による調査によりますと大きく3つの観点で整理をされています。したがって、ここでは3つの観点で審議をしてはいかがかなと思います。

委員長 今、市の調査資料同様、3つの観点でという意見がありましたので、私から詳細を説明いたします。

市の調査員による3つの観点といたしましては、まず、編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点、これが1つ目の観点でございます。次に、構成・分量・装丁、表記・表現が2つ目の観点でございます。最後に、本市の児童の実態や地域等の特性との関連、これが3つ目の観点となります。これらの3つの観点をもとに進めてはどうかというご意見だったと思います。委員の皆さん、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、観点ごとにご意見をいただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは、各委員からご意見をいただきたいと思います。まず1点目の観点からいかがでしょうか。それでは、志水委員、お願いします。

志水委員 私はまず、「特別の教科 道徳」に係る観点からお話をさせていただきます。

子どもたちに道徳性を養うためには、子どもが物事を多面的に捉えて、あるいはさまざまな角度から考えたりする機会を設

定して、多様な感じ方や考え方に触れさせる授業を行うことが大切だと思っています。そのためにも教科書の持つ役割は大きなものがあると思いますけれども、各教科書とも、観点の1つである自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える工夫ということがさまざまに試みられていると思いました。

中でも、光村図書はその後の展開が想像できるように、結末の書かれていない教材が多く掲載されているところに特徴が見られました。各教材の終わりには、「考えよう」「つなげよう」が設けられていて、「どうしてでしょう」とか、「どんなことを考えたでしょう」のように、いろいろな意見を導き出すような設問になっています。また、「あなたなら何と答えますか」という設問は、子どもたちが道徳的な課題を自分自身の問題と捉えて向き合うという考える道徳につながって、さらに、自分のクラスの友達は何と考えたのかな、知りたいなと思うような、議論する道徳につながるよい問いかけ方だなと思いました。

もう1者、道徳的価値をより深く多面的・多角的に考えられるというような観点の工夫として、日本文教出版も各学年に5つほど「心のベンチ」というページを設けていました。「あいさつランド」や「『友達のよいところさがし』ビンゴゲーム」のように、ゲーム的な要素を取り入れたつくりで、楽しみながら体験的に考えを深めたり、写真やグラフなどの資料を示して、子どもたちの気づきや考えをさらに深めたりすることができるようになっているところがよいなと思いました。

委員長 まず、来年から入る道徳の「特別の教科 道徳」に係り、「考え、議論する」という観点でお話をいただきました。この観点でほかにいかがでしょうか。では、清水委員。

清水委員 私も同じように、「特別の教科 道徳」に係る観点というところからお話しさせていただきます。

学校図書ですけれども、自ら感じ、自ら考える教科書として、「読みもの」「活動」の２部構成で、「考え、議論する道徳」を具現化する工夫がなされていると感じました。

まず、「読みもの」ですけれども、発問を分離し、子どもの主体的な学びを促し、より自由な授業の展開が可能になるように工夫されていると思います。

そして、分冊ですけれども、「活動」として、内容項目ごとの紙面構成となっておりまして、発問には、「はなしあおう」「かんがえよう」「みつめよう」等のマークをつけてもらっています。「はなしあおう」は、話し合う前にまず自分で考えて書いたりとか、その人物になって考えたりしたことを、もちろん話し合うということを促しておりますし、「かんがえよう」では、お話の出来事や人物の様子、気持ちを考える。そして最後の「みつめよう」では、そのお話を通して考えたことをもとに自分を見つめるというふうに促されていると思います。さらに、その教材に最適な学習活動を、「アクティブ」というマークを例示することによって、先生方もアクティブに、授業を新しいスタイルとして目指すというふうにやりやすい構成になっていると思います。最後に特設ページが設けられていますので、1つの内容項目で見開き1ページとして、学びの記録としては見やすいと感じました。

委員長 ほかにいかがでしょうか。金子委員、お願いします。

金子委員 私も同じく、道徳の観点の中でも、特に「考え、議論する」学習に導くための教科書という観点で見させていただきました。

その中で各者の教科書を比べてみた中で、私自身は光文の教科書がすぐれているのではないかなと考えました。その根拠としましては、まず一番最初に、例えば6年の教科書でいけば、

4 ページ、5 ページに「道德の時間は、こんな時間です」という明確なまとめがありまして、そこには、考え方として、まず問いをもつ、そこから個人で考える、そして話し合う、最後に個人でまとめるという流れ、これをしっかり整理した上で学習の仕方をきちんと提示している。そして、これは児童にとっても非常にわかりやすいものだし、学ぶ価値のあるものだと考えています。その後にもう1つ、この教科書には「やってみる」という課題設定がされていまして、押しつけがましくなるのではなく、そこであなたならどんなことができますかということが各教材に提示されている点。例としましては、6年の22ページに、「礼儀」という題の「ナイスリターン」という課題が設定されていまして、人の意見に対してどんなことを返したらいいのかなということについてサンプルをまず示した後に、新しい場面設定をして、「あなたならこの場面でどうしますか」というような問いかけがされているところは、子どもたちの議論をするとか考えるというところで非常に優れてているかなと思って、見ていました。

もう1点、同じく光文の教科書ですけれども、各教材に課題設定が行われているんですが、これが多過ぎず、「何々について考えましょう」、「考えたことを話し合いましょう」、「何々についてやってみましょう」、「何々について調べて発表しましょう」、私が見た限り大体この4パターンなんですけど、この4パターンのうち、教材に合わせて2つずつだけ絞って設定している中で、これは児童の実態や何かをしっかりと踏まえて、教員が工夫して展開を考えていくことに非常に適した資料だと考えています。

委員長 ほかにいかがでしょうか。では、隣の秦野委員、お願いします。

秦野委員　　今、金子委員から出た視点とよく似ているんですが、私は、学研のみんなの道徳について話したいと思います。

金子委員が言ったような工夫が学研にもされていて、教科書の題材の内容を受け、「やってみよう」「広げよう」「深めよう」「つなげよう」というような４種類の学び方が示されています。これは多様な学習の展開を子どもたちやこれを扱う教員がしやすくなっていると思います。「考え、議論する道徳」に係る内容、構成になっていると考えられます。

また、どの学年のものにも初めにプロフィールを書くページがあるんですが、そのところにさりげなく、「１年前の自分と比べてみよう」という投げかけが示されていて、これは、去年の自分はこうだったけれども、今、僕の特徴を振り返ってみるとこうだなというふうに、まず自分の今を見つめて学びを進めていくためには、とても良いきっかけになるページだなと思いました。

あと、学研も題材の最後に「かんがえよう」というのがあるんですけども、ここもやっぱり発問が２つに絞られていて、途中、しつこい発問がなく、これも先生方が児童の実態に合わせて、この題材について深めていく、考えていくためにはとてもいい構成になっていると感じました。

委員長　　ほかにいかがでしょうか。それでは、こちらの列で、小林委員、お願いします。

小林委員　　今、秦野委員からお話があった児童の実態という点で、私も、学研のほうで、その資料の内容について読ませていただきました。

その中で、資料の内容に日常生活から想像しやすいものが含まれていて、登場人物が児童と同世代であるなど、児童が共感でき、自分のこととして考えやすくなっていると思っておりま

す。そのため、道徳の観点に関連しては、児童の揺れ動きやすい心を刺激して、自己肯定感を持たせる身近な事柄を取り上げることで深く考えさせる内容になっているのではないかと考えております。また、その内容は非常に多岐にわたっておりますので、さまざまなことを多面的にとることがしやすい工夫がされていると思っております。

委員長 今、「特別の教科 道徳」のことについて大分話が出ておりますが、ほかにはいかがでしょうか。それでは、門河委員、お願いします。

門河委員 私は、編修の趣旨と工夫という観点でお話をさせていただきます。

今回の道徳の教科書の中には2冊に分かれている者が幾つかあるんですが、その中で学校図書の教科書は、「読みもの」と「活動」の2分冊で構成されております。

「読みもの」のほうは、純粹に資料のみが掲載されていて、設問があつたり、児童の考えを誘導するような言葉が一切書かれておりません。そのことにより多様な授業展開が可能になり、児童の気づきを考えさせることができる内容になっていると思います。また、「活動」のほうの設問も子どもの素直な気持ちを引き出すものになっていて、恣意的な内容になっていないという点も優れていると思いました。

委員長 今、編修の趣旨と工夫ということで分冊のお話が出ましたが、その辺に関して――では、細川委員、どうぞ。

細川委員 ただいまの分冊のお話が出ましたが、私は、別冊で「道徳ノート」がついている日文についてお話をさせていただきます。

こちらは全ての教材に適したページで構成されておりまして、1、2年生は升目、3年生以上は縦罫ということで、発達段階に工夫された、書くスペースも広く書きやすいノートになっています。このノートに一人一人が自分の考えを記していくことで自分自身の考えが深まるとともに、学びの積み重ねや成長を実感することができるのではないかなと考えました。そして、このノートの活用により、教師も一人一人の児童の学習状況や成長の状況、学びの様子をきちんと把握することの1つの手だてとすることが可能であると考えます。また、自分の考えだけではなくて、友達の考えを書くスペースもあります。このことで、友達の考えをしっかりと知ろう、友達の思いも大切にしようという気持ちにつながって、さまざまな考え方があることに気づくこともできるのではないかと考えます。自己を見つめるとともに、多面的・多角的に考えるという視点において配慮がされているなと考えました。

同じように、あかつきにも別冊のノートがついています。こちらは、道徳的価値が明確化されるように内容項目別になっており、児童が見通しを持って自分自身の課題として向き合うことができるような構成になっているのではないかと考えました。このようなノートを活用することで、一人一人が自分の考えを見つめて、友達の考え方を大切にすることにつながり、考える道徳、議論する道徳にもつながる可能性があると考えます。ただ、自分のこととしてたくさん考えて、思いがたくさんあっても、文章にすることがどうしても苦手というお子さんもいらっしゃると思います。そういう意味では、書いておしまいということではなくて、大人が目の前の子どもをよく見つめてよく話を聞くなど、一人一人に寄り添った配慮をしていくことが大切だなということも考えております。

委員長

岡委員も分冊のことでしょうか。

岡 委員

別冊、分冊の「活動」編とか、「学びの手引き」というのは、先生方の経験に左右されずに一定のレベルの授業をするということについては大変便利だなと思うんですけども、逆にそれに頼り過ぎたり、捉われ過ぎてしまうと誰がやっても同じ授業になってしまうというリスクもあるように感じています。道徳の授業で大切にしなければいけないのは、価値観の押しつけではなくて、子どもたちが物事を多面的・多角的に考え、深めることができるようになるということだと思っています。

8者の教科書を見比べてみますと、「読みもの」編と「活動」編が別冊になっているもの、「学びの手引き」という形で、読み物の後ろに考え方の視点が記載されているもの、読み物だけのものなど、それぞれの者の意図が大変よくわかって、工夫されているなと感じました。ただ、それらの活用については、教師の力量や考え方に応じて使い分けられるようにするのがいいかなと考えています。

東京書籍はその辺が大変あっさりと取り上げられておりまして、また、学校図書、日本文教出版、あかつきについては別冊になっているということで、この4者については教師の裁量によって使い分けがしやすいなと感じました。

委員長

先生方の経験もいろいろですので、先生方にとってどれが使いやすいかというのはなかなか難しいものがあると思います。ほかにはいかがでしょうか。では、三橋委員、どうぞ。

三橋委員

分冊とはちょっと話がそれてしまうんですが、多面的・多角的に考えるという点でお話ししたいと思います。

8者の教科書を見比べてみますと、学研の教科書だけなんですけど、他者と違いまして、それぞれの教材の前に主題名とか問いかけの部分が入っていません。そのため、児童は先入観を持

つことなく、特定の価値観を持つことなく教材に入ることができ、自らの問題意識を育てていくことができると思います。このことから議論しやすい工夫がなされているということで、適しているのではないかと考えます。

委員長 それでは、橘田委員、お願いします。

橘田委員 多面的・多角的というところで、私は光文の教科書が非常に印象に残りました。

教科書の下段のところに「投げかけ」という欄が配置されていて、つぶやくように投げかけられています。そして、それによってさまざまな角度から考えることができる工夫がされていると思いました。また、その内容も素朴な問いかけなので、内容においても主体的な問題解決のヒントとなるように配慮されているなと感じます。しかも、その考えさせたいことが本文の真下に出ているので、一度読んだ後にもすぐに戻れるような配慮がされていて、とても見やすいなと思いました。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。では、細川委員、お願いします。

細川委員 ただいまお話のありました光文についてですけれども、光文は、全学年３６以上の豊富な教材が用意されています。地域や学校、学級の課題に合った、そのときに応じた適切なときに適切な教材を選ぶことが可能であると考えます。そうすることで、児童が自分のこととして考えやすくなり、まさに自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることにつながる道德の授業が進められるのではないかと考えます。

編修の趣旨と工夫の観点というところからなんですけれども、私は学研がいいなと思ったんです。学研は、いじめ防止対策推進法の観点を取り入れて、全学年で「いのちの教育」とい

うものを最重点テーマとして取り上げています。学年の発達段階に応じて3つの教材を取り上げていまして、自分自身、そして友達の命を大切にしよう、お互いを尊重しようという、日々の生活の中で子どもたちに大切にしてほしいことについて考えることができるさまざまな教材が取り上げられているところがいいなと考えました。そして、自立した一人の人間としてたくましく生きる力、多様性を尊重して多様性を認め合う思いやる力も育むことができる教科書であると感じました。

委員長 それでは、ほかにいかがでしょうか。では、加瀬委員、お願いします。

加瀬委員 私は、1つ目の観点の学習指導要領と資料との関連づけの工夫という点で見ました。

 いずれの教科用図書も新しい学習指導要領に即していますが、特に光文では、各学年で育てたい道徳的な判断力、心情、態度などについて、関連する資料には重点課題としてわかりやすいマークがつけられております。それによって複数の資料を2週にわたって続けて学習することで、より深く考えさせ、理解を深めさせられるような工夫がされている点ですぐれていると思いました。

委員長 ほかにいかがでしょうか。それでは、門河委員、お願いします。

門河委員 とられている教材の内容という観点でお話をしたいと思います。

 比較的同じような教材文がどこの会社でもとられているという傾向はあったんですが、その中で私が特徴的に感じましたのは光村図書です。5年生で子どもの権利条約、6年生で世界人

権宣言を取り上げていました。このことで人権感覚を養うことができるとともに、グローバルスタンダードにつながる見方を示すこともできると思います。そして、人権宣言、権利条約と自分の生活との関連を考えるという意味では、道德教育の価値の非常に高いものだと思います。これから国際社会に生きていくであろう子どもたちにとってふさわしい内容がとられていると思いました。

委員長 人権問題、いじめの問題、今日的な教育課題を各者とも取り上げているということでした。では、小林委員、お願いします。

小林委員 私も内容に関してなんですけれども、社会的課題につながっていくという視点で読んだものの中で、教出は、内容として実在の人物を取り上げたものが多かったと感じました。そのために、社会的な状況を反映させる題材となっているので、児童の興味が社会的課題へとつながっていくように工夫されていて、教師のほうもそれに基づいて工夫ができるのではないかなと考えました。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。清水委員。

清水委員 いじめ問題を重要項目として通り上げている東書です。

いじめのない世界として、各学年で直接的な内容と間接的な内容の2つの教材を連続して学習できるようにまず配列されています。低学年では、例えば2年生では教室での具体的な行動の中から勇気ある行動とは何か、または河童のお話から親切を返すなどの友達のことを考え、自他を敬愛する気持ちに気づくようにできています。中学年では、例えば3年生では転入生を仲間外れにしてしまったこととか、4年生では友達を嫌なあだ名でみんなでからかってしまったときのその本人の心の葛藤と

勇気ある行動とは何かということで、最終的に学校を幸せな場所にするためには、どういう責任と正義感が伴うのかということに触れています。最後に、高学年、6年生では、日ごろ親しいお友達と会話している中でさりげなく使っている言葉によって相手を傷つけていることに気づかなかったということから、コミュニケーションのこと。そして、例えばマンションのピアノの音がうるさく感じたのは人間関係が希薄なことも一因としてあったのではないかという大人の話の例を通して、自分も、他人も、相手も大切にするには一人一人がどのような行動をとっていったらいいかということを考える機会になっています。いじめは悪いことであるとか、自分の安全を確保しましょうということ判断する力を養うだけでなく、多面的・多角的にいじめ問題と向き合って、自然と豊かな道徳的心情を育む、そういうふうにならなければならないと感じました。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。では、秦野委員、お願いします。

秦野委員 今、内容の件が出ているんですが、私は今から光村図書の内容と、編修の趣旨と工夫という観点からお話をしたいと思います。

先ほど門河委員から子どもの権利条約等が取り上げられているということが出ましたが、光村は学校生活の実態に合った内容が非常に多くて、例えば1年生だと最初に「あいさつ」というのが出てきて、次に、1年生はあさがおをよく育てるんですが、「あさがお」が出てきて、「ありがとうを大切にしよう」みたいな題材が出てきて、学校生活とか学校行事で、夏休み前には「なつやすみのまえに」という題材が出てきたりするんです。なので、児童の成長とか学校行事を考慮した配置が内容的にされているのかなということと、季節感があって子どもたちが自分事としてとても考えやすいのと、それが全学年にわたっ

て系統的に配列されていると感じました。

それと、光村図書の教材の配列で目次を見ると、学習のまとまりや、その学ぶ時期も配慮されて、これは編修された方がかなり自信を持ってというか、こういう意図でやっていますというのを先生方に伝えている部分だと思うんです。途中4回の「学びの記録」というのが配列されているんですが、4回なんです。これは何で4回なのかなと。学期に1回ということではなくて4回配列されているので、藤沢は二期制ではないですけども、とりあえず9月あたりでまた1回振り返りというのが入っているんです。こういったこともいろんな学びの流れを意識しているのかなと感じますし、途中に出てくる「学びの記録」は、子どもの見取り、教師の見取りや自己評価という部分での評価につながるところかと思って、よく工夫されているなと思って、読みました。

委員長 今、編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点、こういうところでお話をいただいていたんですけれども、保護者委員の皆様、何かありますか。では飯田委員、お願いします。

飯田委員 では、私からは保護者の視点でお話しさせていただきます。
近年、低学年のうちから、学校でも、家庭でもSNSについて問題になっていることから、授業の中で扱っていただけたら大変ありがたいなと思いまして、情報モラルをテーマに考えて、比較、検討させていただきました。

まず光村図書ですが、低学年では、決まりを守ることや人のつくったものを大切にすることという情報モラルを考える上での基本を学び、考える内容になっていました。中学年では、自分自身や友達との関係、高学年では、著作権、肖像権、プライバシーの権利などについても考えるようになっていきます。各学

年に応じた内容で学習しながら、毎年知識を増やして深く学べるよう工夫されていて、よいなと思いました。

教育出版では、「学びの手引き」のコーナーが充実していて、多くの課題について話し合えるよう工夫されているなと思いました。こちらの6年生の教科書の中には、食事中的メールを扱ったお話で、マナーについて考える内容のものがありません。インターネットによるトラブルの事例などを扱ったものが多い中で、基本的なマナーを考えるととてもよい内容だと思いました。

最後に、東京書籍について述べさせていただきます。「おうちの人といっしょに考えよう」というテーマで、学校だけでなく家庭でも話しやすい内容になっていて、よいと思いました。6年生の教科書に携帯電話の利用制限やルールについて、2組の保護者の異なる意見を子どもたちがそれぞれについてどう考えるかを議論する内容が出ていました。自分の家庭のルールを守りながら、友達の家庭のルールを理解するのに大変よいと思いました。

委員長

情報モラルに関しては今日的な課題で、今までの副読本の中にはなかなか載っていないもので、教科書だからこそというお話だと思いますが、ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。では、清水委員、お願いします。

清水委員

私も情報モラルについて見てみましたけれども、今話の出ていた教科書もそうなんですけれども、光文のほうは、コラムなんですけれども、5年生では掲示板の書き込みに対して非常に不安定な気持ちになってしまう主人公、6年生では、スマホと上手につき合うためのプラス面とマイナス面というものがありまして、そこからいろいろな展開ができるように、押しつけではなくて、プラス面もあるし、マイナス面もあるという展開になっています。

日文の教科書でも、お母さんの携帯電話を借りてメールをしてみたら生活リズムが狂ってしまったとか、ほかの人の詩集をまねしてしまったことを悔やんでいる主人公とそれに対応する大人の話が出ていました。

委員長 今、第1の観点でお話を進めていますが、ほかにいかがでしょうか。鈴木委員、よろしくお願いします。

鈴木委員 まず、どれも読み物として素晴らしいなと思ったんですけれども、保護者向けのメッセージがあったという点で、学校図書の「かがやけ みらい」なんですけど、こちらの分冊の「活動」というノートのほうに「保護者の方へ」という欄がありまして、この教科書で目指すこと、また、その対応する教材が一覧になっていました。

道徳というのは特に家庭教育と切り離せないというか、密接している教科だと思うんですけれども、日ごろから、学校で教えることと家庭で教えることにギャップがあると子どもが戸惑うのではないかと考えていたので、そういう意味で、細かく記載があったので、連携しやすいと感じました。

委員長 ほかにいかがでしょうか。門河委員、お願いします。

門河委員 光村図書なんですけれども、ここには関連する本の紹介というのがさまざまなところに出されています。先ほど家庭との連携というお話もあったんですけれども、道徳というのは1時間の道徳の授業の中で終わるものではなく、そこから引き続いて、ほかの教科、生活の中、そういうところで関連をして考えていくものだと思います。ここであるいろいろな関連本の紹介によって、道徳で学んだことをその子なりに継続して考えたり、また多様な切り口で見たりすることができるようになると思います。

ました。

例えば３年生の「友だちっていいね」という単元では、複数の友達に関することが書かれた絵本ですとか読み物の紹介があります。それぞれで友達との関係で、いろいろな方向から友達というものを考えられるような構成になっていました。また、全部の学年ではなかったんですけども、「夏休みに調べてみよう」「冬休みに調べてみよう」というコーナーがあって、そこに道徳で学んだことに関連するような調べられる本などの紹介もありました。このことで家庭との連携というのも図れるのではないかと思います。

職員の中には、ちょっと国語っぽいよねというような意見もあったんですが、でも、さまざまな方向に、１つの授業で終わるのではなく、そこからいろいろな発想を広げていくという意味では、こういうつなげる学習というのは必要ではないかなと思いました。

委員長

今のは光村ですね。国語の教科書の会社ですね。ほかにはいかがでしょうか。

今は第１の観点で、一番大事な内容です。それから、「特別の教科 道徳」に係る観点、新しく出てきたところですが、「考え、議論する」ということ、多角的に物事を捉えること、こういうところで各教科書会社が工夫しているところを発表していただいています、いかがでしょうか。まだまだ言い足りないという方はいらっしゃいますか、大丈夫ですか、保護者の皆様はいかがですか。では、小島委員、お願いします。

小島委員

保護者の意見として言わせていただきます。

光村図書なんですけれども、本のサイズとして、Ｂ５サイズということで、子どもが持ちやすいということを考えております。分冊の御本もございますけれども、低学年のお子さんとか

が机の上で出したりするときに、慣れるまでに少々手間取るのではないかなというのを保護者として見ております。

内容としましては、まず低学年のところで、絵とか写真の中に、障がいを持っているお子さんの絵とかも入っておりまして、そういう障がいを持っているお子さんとかをととても身近に感じられるような形になっているのではないかと思います。文章も適当な長さでありますし、みんなが考えられるような形になっているのはとてもいいと思います。巻末にお友達とどのようなことにつき合ったらいいかというようなことのヒントが書いてありまして、集団生活に入られたばかりのお子さんとかにはちょっとしたヒントになるのではないかと思います。

委員長

今、内容とともに、構成・分量・装丁、表記・表現のところにも話が行きましたが、それでは、そろそろ観点の2に移ってもよろしいでしょうか。

それでは、観点の2、構成・分量・装丁、表記・表現のところでご意見を伺いたいと思います。今は光村の話が出ていましたけれども、光村に関連するところはございますか。では、志水委員、お願いします。

志水委員

私も、今、小島委員がおっしゃったように、小学校第1学年の入門期の教科書というような視点で各教科書を拝見いたしました。初めて目にする教科書ということで、その教科のイメージが決まってしまうぐらい1年生の最初というのは大事な時期だと思っています。

そのような中で、各者とも最初は素敵な興味を引くような写真だったり絵を使っているんですけども、小島委員がおっしゃったように、光村の本には、挿絵に描かれている人物が、車椅子を使っている方が載っていたり、そのほかにもさまざまな学年の子ども、そして、抱っこをして多分通勤をするお父さん

の姿、外国籍の子どもたちというふうに多様な方々が描かれておりまして、人権感覚を身につける上でも配慮されているなと思いました。また、入門期の子どもたちはまだ書くということも十分に学習していない中で、光村図書の場合は第5教材まで絵を中心としたつくりなっておりまして、絵を中心にして考えを引き出すようなつくりになっているのがよいなと思いました。まだ文字をきちんと習得していない1年生には適したつくりだと思いましたし、また、色調もとても落ちついていて、自分がその絵の中に投影できたり、登場人物になりきったりして、じっくりと考えることができそうだなとも感じました。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。では、高橋委員、お願いします。

高橋委員 私は、2つ目の観点について、支援教育の切り口で拝見いたしました。

まず全般的に色覚の違いを意識した編修ということで、カラーユニバーサルデザインについてということでは、どの発行者も配慮して編修されております。それから、特別支援教育の有識者をあえて校閲者に入れているということであっているのが東書と光村だったんですが、拝見しますと、改行の工夫とか読みやすい字体など、表記に配慮が感じられました。それから、全ての教材について見開きの右のページから始まるように構成している本が4者ありました。学研と光文と学図と日文です。昨今、注意がそれやすい子や集中しにくい子への配慮ということで、教室環境なども刺激をなるべく少なくしようといった配慮がなされておりますが、教科書についてもこうした配慮は効果があると思われます。

それから、分量ですけれども、分量も教材のその中身によって、長い分量とか、短い分量というように、心情を扱った読み物教材は長く、議論につなげる教材は短くというように適切に

配分しているなというのが学研と学図でした。

表記や表現については、全般的にどの本についても、学年段階という発達段階に応じた配慮がなされているように感じましたが、比較していきますと、学研が比較的文字が大きく読みやすいかなというところと、紙面構成とか視覚的に捉えやすいような構成になっているという点で好感が持てました。難しい言葉に注釈をつけたり、読みやすく言い換えをするなどの発達段階に応じた扱いが丁寧だなと感じて、見ました。

委員長 今、支援教育の立場からご意見をいただきました。

ほかにはいかがでしょうか。それでは、橘田委員、お願いします。

橘田委員 日文についてですけれども、縦がB5サイズでできているんです。横は少し長いんですけれども、比較的コンパクトなサイズになっていて、イラストと文章の流れの中に適切にイラストが差し込まれておりとても見やすいと感じています。また、学年ごとに文章と挿絵等のバランスが工夫されていて、そのサイズを十分に利用されているなと感じました。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。では、加瀬委員、お願いします。

加瀬委員 先ほど資料の長さについてのご意見が出ましたけれども、私も、1単位時間の中で資料の内容を理解して考えを深めるということを基本と考えますと、資料の分量が適切である必要があると思います。

その点で、教出は全体的に資料の長さが比較的コンパクトに抑えられていて、内容も児童にとってわかりやすく、内容を理解した後に討論をしたり、考えを振り返ったりする時間が確保できて、1単位時間内に完結する時間配分での授業が可能であ

ると思います。

あわせて、道徳的な価値観に対して、自己の変容を実感しやすい構成という点での工夫を見させていただきましたが、その点では、特に東書では、2年生以上の巻末に学習の振り返りを簡潔に書き込める記入欄があります。各学期末に記入した自らの考えを視覚的に見比べて、同一面で捉えられる表記になっております。考えの深まりや心の変化など、自身の成長を実感しやすい工夫がされていると思いました。あわせて、この欄は、自己評価はもちろんのこと、教師側の評価資料としても有効に活用できると思いました。

委員長 それでは、小林委員、お願いします。

小林委員 私は、道徳の本を読んでいくにあたって、さまざまな子どもたちが議論をしたり、考えを深めたりと互いにやっていく際に、やはり挿絵とか写真の影響というのは大きいのではないかと思っています。ただ、微妙なさじかげんで、その読み物の捉え方とか意見が違ってくるということも考えられるので、それに関してはどの会社も工夫をされていると思うんですが、私としては、光文の分量、配分が適切であったかなと思っています。

まず、見開いたときの各ページの文章量と写真の配置というのが工夫されていて、それが影響もされにくく、しかもきちんとポイントも入ってくるというような感覚があるのではないかなと私は思いました。そのため読みやすいわけで、子どもたちにとっても、学習内容に関しての時間配分とか、その展開に追いついていくという観点で見えていても、そういうバランスというのはとても大切にされていて、よかったなと感じました。

委員長 挿絵の印象というのは子どもたちにとっては強烈なインパクトがありますので、その辺をどう扱っているかというのも大切

なことだと思います。

ほかにはいかがでしょうか。では、秦野委員、お願いします。

秦野委員 今の挿絵とか紙面のバランスということで、東京書籍の本について話したいと思います。

東京書籍の本は、私が見ていて本当に気持ちがいい、写真と挿絵のバランスがとてもよくて、しかも低学年では挿絵が多い印象です。高学年になってくると素敵な写真がたくさん使われていて、心で感じられる工夫がされているのかなと。挿絵も、変に子どもっぽ過ぎなくて、段階に合った挿絵があるなという印象を受けています。それで巻末に折り込みのページがあるんですけれども、高学年の写真と同じように、その写真もすばらしくて、自然はいいなという畏敬の念が湧いてくる、あとは四季の移り変わり、日本の伝統文化みたいなものについて心で感じられるような写真の扱いがされているなと思っています。先ほど余白の件もちょっと言ったんですけれども、教科書が少し大き目なんですけれども、余白がきちっととられていて、学んでいるときとか気づいたときにそこに何か書き込めるような使い方もできるのかなと感じるぐらい紙面のバランスはいいなと思いました。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。では、橘田委員、お願いします。

橘田委員 先ほどからさまざまな委員から出ていた光村についてですが、ランドセルは大きくなりましたけれども、やはりサイズは小さいほうがいいのかという思いはあります。この中でB5サイズというのは唯一光村だけかなと。先ほどからも出ていますように、まず手に取りやすいのと、小さい手にも持ちやすい大きさだということ、それとはまた別に、挿絵と写真と文章のバランスがいいので、B5サイズという小さいサイズだけれど

も、バランスをとることでページ数を随分抑えている、そのバランスのよさが目にとまりました。本文の用紙も優しいトーンで、紙の質もやわらかいのでめくりやすく、その辺も手になじみやすいなと感じました。

委員長 新たな視点で、ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

今、構成・分量・装丁、表記・表現の第2の観点でお話を進めていますが、保護者の皆様はよろしいですか。では、飯田委員、どうぞ。

飯田委員 私も、東京書籍の付録で「つながる・広がる」というページを見て、感動いたしました。とてもきれいな写真とあわせて自然や文化などを勉強するのにとてもいいと思います。子どもたちが考えて話し合い、自分の地域の自慢できるところなんかを見つけるのにとてもいいなと思いました。

あと、付属のノートがついているものもあったんですけども、やはり低学年のお子さんには持ち運ぶのに重たいかなと思いました。

あと、うちの息子のことで恐縮なんですけれども、作文が大嫌いでございまして、道徳は本来話し合って考える授業なんですけれども、升目のたくさんあるノートを見ただけで、こんなに書かされちゃうのという先入観を持ってしまったら、ちょっと残念なものになってしまうのかなという懸念が少しございました。

委員長 すごくリアリティーのある発言で、そういうお子さんは山ほどいるのではないかなと思うんです。ノートを開けただけで、道徳を嫌になっちゃうというのはあるかもしれません。

それでは、第2の観点でまだご意見をいただいていない方と

か、もう少しという方はいらっしゃいますか。

それでは、いよいよ最後に、本市の児童の実態や地域等の特性との関連についてご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。では、金子委員、お願いします。

金子委員 私は、本市で特に力を入れている安全・防災教育という観点からいろいろな教科書を見比べてみました。

重点を置いて編修していると思われたのが2者、東書と学図で、その中でも私がいいなと思ったのは東書の教科書なんです。1つは、単に防災を扱うとか災害を扱うのではなく、ほかのことを考える材料として、例えば「人とつながって」「生命、自然、大いなるもの」というブロックの中に、災害に関すること、防災に関することが自然にずっと織り込まれていて、6年間を通して防災に関する考え方を、教材としてもそうだし、考えることとしてもそうだし、全体を通して育てていくことができるという編修をしている点、ここでとてもよかったのではないかなと思っています。

あと、直接防災について問うことについても、単に扱うだけではなくて、自分の生活に関連づける課題設定が東書の教科書ではされておりまして、例えば、6年の「土石流の中で救われた命」、5年の「一本松は語った」という教材が入っているんですけれども、その課題設定が多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていると思ったことはありますかというような切り口に最後はなっておりまして、子どもたちの考え方をどんどん進めていく中で非常に適切な設定がされているのではないかと思います。

また、本市では環境という面についても力を入れているところですが、その中でも非常に身近で考えやすい題材として、6年の教科書に「タマゾン川」というのが載っておりまして、これも系統的に1年から6年まで扱っていた東書の教科書

がすごく印象に残りました。

委員長 ほかにいかがでしょうか。志水委員、お願いします。

志水委員 私は、道徳の中の内容のところ、国際理解とか国際親善の項目を扱う教材を見てみたんですけども、各者いろんな国が取り上げられていました。その中でも、神奈川県内でもポルトガル語とかスペイン語を母語とする外国籍児童が多い本市の特徴と照らし合わせたときに、光文書院の教材は本市にゆかりの深い国々を扱っていたように思います。例えば、2年生の「ジョゼくんとおりがみ」という教材は、ブラジルから来たクラスメートとの交流を描いています。また、いろいろな国の言葉を紹介するページには、中国語、英語に加えて、スペイン語、ポルトガル語、韓国語を取り上げていることも、本市の児童には身近なところから国際理解や国際交流を考えるきっかけになるのではないかなと感じました。

委員長 それでは、ほかにご意見をいただきましょう。岡委員、お願いします。

岡委員 今の志水委員の意見とも関連するんですけども、先日、報道でもありましたけれども、神奈川県というのは全国で2番目に外国籍の児童が多い都道府県で、本校でも国際教室が設置されていて、低学年にも外国籍の児童が在籍しているという環境です。多国籍の児童と一緒に学ぶという点でも、道徳において国際理解の観点というのは非常に重要だなと考えています。

東京書籍、光文書院、学研の1年生版に外国の子どもとのかかわりに関する教材が入ってしまっていて、藤沢の子どもたちが1年生から外国の児童とのかかわりについて考えることができる

というのは大変いいことだなと感じました。

委員長 今、国際理解についてお話が出ましたが、その辺はいかがでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、ほかにいかがでしょうか。では、三橋委員、お願いします。

三橋委員 本市ゆかりの人物との関連ということでお話をさせていただきたいと思います。

光文書院の４年生の教科書に「十六番目の代表選手」という教材があります。北京オリンピックで金メダルをとった女子ソフトボールチームの話なんですけれども、ソフトボールチームの話は３者ほど載っているんですが、この教材は、けがで代表選手を外れた選手と心をつなげて戦って、最後に記念写真のときに、そのけがで外れた選手のユニフォームも掲げて一緒に写真を撮ったという話です。

ご存じのように、このときの代表チームには、本市の御所見地区出身の山田恵理選手がいました。山田選手は今でも地域の青少協のイベントに呼ばれて、参加してくれています。また、２０２０年の東京オリンピックも目指している、今でも現役の日本代表選手です。本市の児童にとっては、身近な先輩を扱った教材ということでとても適しているのではないかと考えます。

委員長 ほかにいかがでしょうか。金子委員、お願いします。

金子委員 今、三橋委員から本市ゆかりの人物ということが出たので、私も、マニアックになりながら、一応社会科の教員ですから、全部の教科書で、本市ゆかりの場所とかがどのくらい扱われているのかという観点で見させていただきました。

特に２つ、全体の構成とかの話ではなくて、個別の教材の話なんですけれども、東書の教科書の２年生に「かむかむメニュー」がどんと載っておりまして、本市では、このかむかむメニューについては、食育とか小学校の学習の中で、いろんな学校でしょっちゅう扱っておりまして、この教材が出てきた瞬間に子どもたちの意識があつというふうに寄っていくのではないかなと。

あと同じく東書の４年の「走れ江ノ電光の中へ」は、単に江ノ電を扱っているのではなくて、病気の子どもがその病気と闘っていく様子を扱っていく中で、電車が好きなんですけれども、江ノ電だけではなくて、そこの走っている風景が教材の中で思い出せるように描かれていて、これを見たときに子どもたちの心がずっと寄っていくような教材ということで、そんな観点で東書の２教材が気になったので、お伝えしておきます。

委員長

小学校では、かむかむメニューですか、かみかみメニューですか、あごを鍛えようといって、給食でかたいものがあるんですけれども、今、江ノ電のお話とかが出ましたけれども、ほかにはいかがでしょうか。では、三橋委員、お願いします。

三橋委員

私も社会科なので、地域教材はこだわるんですけれども、東京オリンピック関連ということで、２０２０年に江の島でセーリング競技が開催されるということで、それに関連した教材を見つけました。

あかつきの４年生なんですけれども、「人間愛の金メダル」という教材です。これは１９６４年東京オリンピックの江の島でのヨット競技のときのエピソードで、海に落ちた他国の選手を救助したためにメダルがとれなかったスウェーデンチームの話なんですけれども、そういうものが載っていました。また同じ話が教材ではなくてコラム扱いで、学図の４年生、光文の３

年生にも載っていました。

委員長 金メダルの例の話は副読本によく載っていたものですね。
ほかにはいかがでしょうか。

鈴木委員 保護者が集まると学年を問わず話題になるのが、やはり情報モラルやいじめの話題なんですけれども、日文の教科書には、その情報モラルについて、1年生からわかりやすく年を追うごとに情報がいろいろ載っていたのがすごくよかったなと思いました。中でも6年生の「情報モラルの達人チェックシート」というのは、ゲーム性があって、子どもも取り組みやすいし、自分がどの位置にいるかというのもわかりやすく、取り入れやすいのではないかと思います。

オリンピック関連ですと、学図の6年生の教科書に「オリンピックのくれたもの」というのがありまして、それは長野オリンピックでおばあちゃんが通訳のボランティアをしたというものだったんですけれども、これから藤沢でオリンピックが開催されるのを子どもたちも知ってはいると思うんですが、そういうボランティアという形でかかわることもできるんだよということを知ることができる教材なのではないかなと思いました。

委員長 ほかにはいかがでしょうか、保護者の皆様はよろしいですか。
ありがとうございます。今、3つの観点で終わったんですけれども、今までの第1の観点、第2の観点でもよろしいんですが、ここを忘れていたとか、こんなところが印象的だったというので思い出して、もうちょっと発言したいという方はいらっしゃいますか、よろしいですか。

それでは、議題1「平成30年度使用小学校用「特別の教科道徳」教科用図書について」の審議はここまでといたします。
次は特別支援学校で使う教科用図書の審議に入りたいと思い

ます。

それでは、ただいまより 10 分間休憩にいたします。

午前 10 時 37 分休憩

午前 10 時 50 分再開

委員長 それでは、定刻の 50 分になりましたので、審議を再開いたします。よろしくお願いします。

次に、議題 2 「平成 30 年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」審議をしてまいります。

審議の前に、資料等について事務局に説明をお願いいたします。

事務局 資料を説明させていただく前に、第 1 回審議委員会から本日までの特別支援教育に関する教科用図書の調査研究の流れについて、まず説明いたします。

今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第 9 条に規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、児童生徒の実態に合った一般図書を充ててもよいとされているものでございます。現在、全国の義務教育諸学校で教科書として使用しております一般図書のうち、比較的採択数の多いもので、かつ発行者が平成 30 年度においても引き続き当該図書の発行供給を予定しているものを文部科学省初等中等教育局教科書課がまとめました「平成 30 年度用一般図書一覧」があり、この一般図書一覧を第 1 回審議委員会の際に皆様に配付しております。

この一覧に載っている図書を展示いたしました教科用図書研究会が 5 月 9 日から 15 日まで県立総合教育センター善行庁舎で開催されました。この研究会におきまして、白浜養護学校

と特別支援学級の先生方が実際に展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や次年度入学する児童生徒を想定いたしまして調査研究を行い、その結果、平成30年度使用に適すると思われる一般図書についての報告として教科用図書調査書が提出されております。

それでは、資料の説明をいたします。まず、サイドテーブルをごらんください。そちらには、「平成30年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」と特別支援教育関係教科用図書見本の一部が展示してあります。「平成30年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教師に調査研究させたものを簿冊としたものです。

次に、「平成30年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、「平成30年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書」をもとに事務局でまとめたものです。こちらの調査書まとめは、第1回の審議委員会が終了した後、本日までの間に送付し、本日お持ちいただいた資料となります。

こちらの1ページをお開きいただき、一覧表の一番上のところをごらんください。この一覧表は、附則第9条による図書を4つに分けて表記してあります。

まず1つ目は、「新」の文字を記載したもので、これは今回調査研究をした結果、新たに教科書としてふさわしいとして提出された新規図書でございます。2つ目は、□の記号を記載したもので、これは昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科書としてふさわしいとされた図書でございます。3つ目は、●の記号を記載したもので、これは昨年度採択されましたが、今年度、発行者による供給が困難となった図書でございます。最後4つ目は、無印のもので、こ

れは昨年度採択され、本年度も教科書としてふさわしいと調査された図書でございます。

なお、18ページから25ページに、新規図書と複数種目で希望のあった図書等を一覧表にして資料1としてお示しいたしました。この資料には、児童生徒一人一人の特性や発達段階を踏まえた上で、各学校が一人一人に適した教科用図書として選定した理由を記載してございますので、参考になさってください。

続きまして、16ページをごらんください。一覧表の最後、No.10、道徳の欄の下のところでございますが、今お話をいたしました一般図書のほかに、平成30年度使用小学校用教科用図書、平成30年度使用中学校用教科用図書、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書がございます。なお、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書につきましては、資料2として26ページ、27ページにお示ししました。これは第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（平成30年度使用）」をお渡しいたしましたが、この中で知的障がい者用として挙げられている図書でございます。この本はいわゆる☆印本と呼ばれているものでございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につきまして、28ページに資料3として記載させていただきました。

以上で資料の説明を終わります。

委員長

事務局、ありがとうございました。ただいま資料についての御説明がありました。なお、平成30年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書ですが、個人情報の問題がありますので、非公開にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。それ以外に資料等について何か御質問はございますか。

では、ないようなので審議に入ります。

新規の図書については、本審議委員会が初めて審議する場になっておりますので、慎重な審議をお願いいたします。どうぞよろしくお願いします。

それでは、これから審議してまいりたいと思いますが、審議の進行について何かご意見はございますでしょうか。細川委員、お願いします。

細川委員 今回、各学校からの調査では、附則第9条によって、教科書として使用できる一般図書が数多く出されております。特別支援学級や特別支援学校で使用する教科書は、児童生徒の発達段階や特性に基づいて決められていくということがありますので、できるだけその幅を広く用意することが必要だと思います。本校の児童の実態を考えましても、一般図書のニーズが高いと考えております。先ほど事務局から説明がございました複数の教科で申請のある□印のついているものにつきましても、1つの本に1教科ということではなくて、それぞれの子どもの実態によって別の教科で使うということが十分考えられると思いますので、できる限り学校から希望したものを使えるような方向で審議をしていきたいと思います。

委員長 特別支援学級、学校の特性を考えると、そちらのほうがいいかと思います。ほかにはいかがでしょうか。秦野委員、お願いします。

秦野委員 私も今の意見と同意見です。採択の幅を広げるためにも、昨

年度までにもう採択をされている教科用図書は、一般図書としては引き続き使えるようにして、今回、新しく出されたものや複数の種目で利用の希望が出ている図書について審議していくのがよいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長 ほかにご意見はございますか。

それでは、ただいまのご意見を受けまして、各学校から希望が出ているものについては教科書として使用できる方向で考えていくということで、これからの審議の進行については、新規の図書と複数の種目で希望が上がっている図書について審議していくということでよろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 では、そのように進めさせていただきます。

お手元の資料の「調査書まとめ」の印で言いますと「新」と書かれた新規図書、それから、□の印がついている、今まで国語だったんですけれども算数でも使えるよと、そういう複数種目で希望がある図書についてご意見を伺いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 では、皆さん、よろしくお願いします。それでは、新規図書や複数種目で希望がある図書についてですけれども、No. 1 の国語・書写から No. 10 の道徳までの種目に入っております。

まず、No. 1 の国語・書写の図書ですが、15冊申請が上がっております。その中にはほかの種目でも希望がありますので、それを含めて、国語・書写に関連するものからご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。では、加瀬委員、お願いし

ます。

加瀬委員 それではまず、新と書かれております三省堂の「ことばつかいかた絵じてん 増補新装版 小型版」ですが、この本につきましては、1つの言葉から広がる言葉の数々を楽しい絵とともにあらわしています。児童の発想力が豊かになるとともに、さまざまな場面での言葉の使い方を楽しみながらページをめくっていくことで、実体験と結びつけながら自然に言葉の使い方が身につけられることが期待できると思います。言葉からさまざまなイメージが広がることで言葉の楽しさも実感でき、語彙力を向上させる図書だと思います。

もう1つ、□の複数の種目で希望があった図書の偕成社の「日本の絵本 100かいだてのいえ」ですが、1階から100階に向かって、主人公とともにわくわくしながら階段を上っていく、さまざまな動物に出会い、その暮らしに触れていきます。100という大きな数に、最初は100階はとても高くて遠いと思っていても、10階ごとにそれぞれの階に住んでいる動物たちの生活に引き込まれていくうちに、あっという間に100階にたどり着いてしまったという感覚になります。絵本の楽しさを実感できる図書だと思います。

委員長 今、「ことばつかいかた絵じてん」と「100かいだてのいえ」についてお話がありましたが、これに対してはいかがでしょうか。

それでは、ほかの本についてご意見がある方——小林委員、お願いします。

小林委員 私のほうでは、新とついています講談社の「齋藤孝のイッキによめる！名作選 小学5年生新装版」についてお話ししたいと思います。

小学校 5 年生版なので、ルビが振ってあります。短編集なので、分量も非常に短く、適切だと思います。齋藤孝さんは「声に出して読みたい日本語」とか、いろいろなリズム感であり、内容の食いつきがいい作品であり、そういうものを選択してくる方なので、ここに載っている作品や作者も、例えばさくらももこ氏は、今、日曜日の 6 時からやっている有名な作品の作者ですけれども、エピソードを繰り返し読んでいても楽しいですし、飽きないです。その他著名な作者に、フェアブルから始まり、黒柳徹子さんの作品なども入っているので、それこそ一気に読める作品が入っていると思います。たとえ内容が難しかったと捉えたとしても、どの作品も独特のリズム感と響きがあるので、楽しんで音読できる教材として活用しやすいのではないかなと考えます。

委員長 今、「イッキによめる！名作選 小学校 5 年生」の本についての説明がありましたけれども、よろしいでしょうか。

それでは、ほかにはいかがでしょうか。細川委員、お願いします。

細川委員 私は、くもんのドリルにつきまして、2 冊お話をさせていただきたいと思います。

まず初めに、2 番の「くもんの小学ドリル国語 3 年生の文章の読解」でございます。何よりも 1 回の分量が少ないので、飽きずに取り組むことができると思われます。そして、短い文章から長い文章へと、易しい文章から少しずつ難しい文章へとスモールステップでレベルアップしてっておりますので、無理なく学習ができて、どの子にも自信につながるのではないかなと考えます。また、1 枚ずつの必ず最後にヒントを提示してくれるキャラクターが出ております。また、かわいらしいカットや吹き出しに書かれているヒントもあることで、読解が苦手

な児童にとっても親しみやすい教材になると考えます。無理なく取り組み、自信をつけられ、読解力を効果的に身につけていくことが期待できるドリルだと考えます。

続きましては、資料 1－13 番、同じくくもん出版の「おけいこ はじめてのおけいこ」です。このドリルは過去に算数・数学で採択されているものです。まずは短い縦の線を引くことから始まりまして、少しずつ長い線へ、そして横線に、次に曲線やジグザグ線へというように、こちらも徐々にステップアップしていく中で、運筆の基本的な力をつけていくことができる構成になっていると考えます。また、親しみやすい絵を大変効果的に使っていることと、線を描く場所が白くわかりやすく示されておりますので、初めて鉛筆を持つ児童にとって無理なく、そして自信を持って取り組めるよい本であると考えます。文字や数字を書くための準備の段階にふさわしいドリルであると考えます。

委員長 今、くもん出版の「小学ドリル国語」と、鉛筆の線のお稽古、「おけいこ はじめてのおけいこ」のお話がありました。
ほかにはいかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

高橋委員 私は、1 番の「デコボコえほん あか あお きいろ」についてです。

目が見えにくい子は絵本というものが見えないので、自分から興味・関心を持つことが難しいのですけれども、読み聞かせ等をしている間で、読んでもらっている本を見ようとしたり、手を伸ばして触れようとしたりというような行為が引き出されてくることがあります。そうした子どもにとっては、この絵本のページの真ん中がでこぼことしていて、手で触れて感じるができるとか、また色遣いのコントラストがはっきりしているので、形がすごくくっきりとしていて、見えにくい子でも、

もしかしたらその境目で物の形の認識ができてくるかもしれないというところで、この本は色の名前だけでなく、動物とか果物の名前等を学ぶのにとっても適していると考えます。

委員長 今、「デコボコえほん」、下のほうに算数でもでこぼこのものがあるみたいですけれども、またお話を伺いたいと思います。

 それでは、ほかにはいかがでしょうか。橘田委員、お願いします。

橘田委員 こぐま社の「1 1 ぴきのねこ」です。有名な本ですが、やはり改めて見てみますと、冒険するストーリーがとてもダイナミックです。終わり方も、その先をみんなで考えられるように配慮されています。そして、昼と夜が色分けされていることや、1 1 ぴきの猫の表情に、一見同じように見えるんだけど、ほんの微妙な違いがあって、それがストーリーとリンクして学習させやすいなと思います。また、その中の1匹がとらねこなんです。そのとらねこの役割を考えさせるように配慮されているところも印象的でした。

 もう1点、ポプラ社の「こえでおぼえる1 2 3」です。画面にタッチすることで音が出る仕組みになって、ゲーム感覚で楽しく学習ができると思います。また、食べ物や動物の名前が数とともに覚えられるように工夫されている。それから、時計と連動させて1日の生活がストーリーとして構成されている、そんなところも生活とリンクさせて学習させるというこちらの意図が子どもに伝えやすいかなと思います。

委員長 有名な絵本の「1 1 ぴきのねこ」と、「こえでおぼえる1 2 3 かずのほん」のお話がありました。いかがでしょうか。

 それでは、ほかに——秦野委員、お願いします。

秦野委員 私は、□の印がついている福音館の「みちかなかがくシリーズ 町たんけん」です。これは生活や地図のところでもう既に採択されているものなのですが、絵の描き込みがとても細かくて、いろんな情報が入っているんですけれども、めくって楽しいんです。その学校を出発して町探検に出かけようというときに、例えば黒い猫を探していますというポスターがさりげなく描いてあって、めくって黒猫を思わず探してしまうような感じで、それから、町に出ると働く人たちがたくさん描かれていて、そこで会話を楽しみながら、先生と子どもがそれを見ながら、何か物語をどんどんつくっていきえるような教材になっているので、生活・地図・社会というところではなくて国語の教科書としても十分にいいものだなと感じます。

また、例えば遠くのほうに洗濯物を干しているお婆さんの絵があるんですけれども、近くなってくると本当にちゃんとそのページでも、こういうお婆さんが洗濯物を干していたんだと、どんどん町に入っているような感じなので、投げかけを変えることで、視点を変えることでいろんな物語やお話を子どもとやりとりできるというところもいいかなと感じました。

委員長 「みちかなかがくシリーズ 町たんけん」のお話でした。
ほかにはいかがでしょうか。志水委員、お願いします。

志水委員 私は、国語・書写の中で4冊ほど、お話しさせていただきます。

まず、先ほど細川委員からもお話しのありましたくもん出版の「ことばと文ぼう集中 小学1年生」と、同じくくもん出版の「漢字集中学習小学6年生」です。

まず、小学1年生のほうですが、見開き1ページで1つの内容を扱っておりまして、ページを開くと右上に学習のポイントがありますので、その下にありますいろいろな課題をそのポイ

ントに戻りながら何度も何度も繰り返すことができるというつくりと、先ほどもありましたが、スモールステップで易しいものから難しいものに練習できるようになっているのが、やはり文字を学び始める1年生の段階のお子さんにとっては、無理なく自信を持って取り組んでいけることだなと思いました。

また、小学6年生のほうは、6年生で習う漢字が、いとへんのつく漢字、てへんのつく漢字というふうにグループに分かれていますので、とてもわかりやすい。そして、音訓索引と画数の索引もあるので、効率的に勉強ができるようになっていると思います。

どちらも本も、集中することが難しいお子さんですとか、あるいは書くことに苦手意識を持っているようなお子さんにとっても負担感なく取り組める適切な分量だと思いますし、積み重ねて学習ができるように工夫されている本だなと思いました。

そして3冊目に、日本教育研究出版の「ひとりだちするための国語」を拝見いたしました。こちらは、学校で基礎的な学習を勉強するとともに、将来の生活自立というところを学ぶものとして取り扱えるものだと思うんですけれども、生活の中で大事なことを具体的に、挨拶の仕方とか、電話の使い方、履歴書の書き方といった身近な日常生活の場面を通して楽しみながら身につけることができるように工夫されていました。また、先ほどもありましたが、全ての漢字にルビがついているということも、とても単純なことなんですけれども、漢字が苦手なお子さんでもストレスを感じないで集中して取り組めるような配慮がされているなと思いました。

最後に、ひかりのくにの「こどもずかんM i o 1 0 たべもの」です。これは以前に、生活・理科、家庭・職業家庭で採択されているものなんですけれども、もちろん図鑑なので、たくさんの写真や絵が掲載されています。ただ、子どもたちにとっては、とても身近な大事な食べ物を扱っていますので、興味・

関心を持って手に取るだろうと予想されます。また、お肉料理のページには、ジュージュー、トロリ、グツグツといったオノマトペがたくさん書かれていたり、スーパーのところの見開きの絵にはたくさんの食品が書かれていて、買物の様子が吹き出しで書かれていたりして、国語の学習として語彙を広げたり、あるいは料理や買物などの生活場面での会話とかコミュニケーションを学ぶということでも、さまざまな子どもの学習目的に沿っていろいろな使い方ができる本だなと思いました。

委員長 今、くもんの2冊、「ことばと文ぼう」、6年生の漢字の本、それから、日本教育研究出版の「ひとりだちするための国語」、最後は「こどもずかんM i o 1 0 たべもの」についてのお話がありました。

いかがでしょうか。細川委員、お願いします。

細川委員 漢字を学ぶ図書ということで、8番、偕成社の「漢字練習ノート小学1年生新版」についてお話をさせてください。

まず、このノートは表紙がとてもかわいいイラストで描かれていますので、児童の興味を引くのではないかと思います。また、スペースもとても広いので書きやすいかと思われます。2ページ見開きで、それぞれに文字の漢字の読み方、書き方、成り立ち、使い方が学べるように構成されております。特に書き方の練習のところでは、書き順を声に出して唱えながら書くことができるように、唱え方も示されています。このような活動を入れることで、声に出しながら書くという行為を楽しみながら書き順を覚えて、正しい文字を書くことができるようになるのではないかと思います。また、お話を読みながら文章の中での漢字の使い方を学ぶことができるようにも工夫されておりますので、本当に一人一人が楽しみながら漢字を学ぶことができる本なのではないかと思います。

続きましては、9 番の学研「小学 3 年のかん字新版」です。こちらは、3 年生で習う漢字を、生命、体、植物、自然というように、いろいろな仲間に分けて配列されていますので、意味のつながりがある漢字が並んで出てきます。そういう意味で、覚えやすいのではないかと考えました。また、それぞれの漢字で、はねるところとかはらうところとか気をつけなくてはいけないところが赤い丸と文字でわかりやすく示されているので、視覚的にも注意をしていきやすいのではないかと思います。

構成としましては、表ページで新しく習う漢字の読み方、書き方、使い方を学んだ後に言葉として書く練習をし、裏のページで文章の中で漢字を書くという流れになっていますので、やはり飽きずに繰り返して練習できる構成になっていると考えます。また、漢字を使ったさまざまな言葉が読み書きとともに繰り返し出てきますので、漢字の定着だけではなくて、言葉の力、語彙を豊かにするためにも役立つことが期待できる本だと思います。

委員長 今、漢字のドリル 2 点についてお話がありました。下村式と学研のドリルです。このことについてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

今、国語のお話が出たんですけれども、保護者の皆さんから何かご意見はありますか。では、鈴木委員、よろしくお願いします。

鈴木委員 先ほどもお話に出ました 5 番の「ひとりだちするための国語」ですけれども、イラストとともに、聞く、書く、読む、話すという人とコミュニケーションをとる上で欠かせないスキルの基礎が学べて、また、ワークがついていて、応用力も学ぶことができるなと思いました。先ほどもお話にありましたけれども、電話の出方や手紙の書き方、履歴書の書き方など、あと簡単な

外国語も取り入れられていたので、社会に出るのにとっても役立って、本の題名であるひとりだちするためのというところにとっても合っているなと感じました。

委員長 今、国語・書写に分類される15冊の本について説明していただきましたが、ほかにはいかがでしょうか、つけ足しとかはございますか。

それでは、国語を終わりました、次に、算数・数学は5冊出されています。算数・数学でご意見をお願いいたします。では、三橋委員、お願いします。

三橋委員 算数・数学は、2冊お話させていただきます。

まずは、くもん出版の「かず・けいさん2 やさしいすうじ」というドリルです。1から30までの数を学習するのに適しています。道たどりとか点結びなどをしながら数字を順番に唱えたり、順番に書いたりするというドリルです。10までの数と10より大きい数についてで少し取り扱いが違うんですけども、10までの数では、具体物と照らし合わせながら数字を唱え、書くという作業が多く取り入れられています。また、10より大きな数については、道たどり、点結びに加えて、虫食い問題、途中があいているという問題を取り入れることで、数字を順序どおり唱え書くことに重点が置かれています。このドリルを使うことで、児童の運筆力とか数を唱える力の育成に適しているのではないかと考えます。

もう1冊は、小学館の「デコボコえほん かずをかぞえよう！」です。先ほど高橋委員から国語の「デコボコえほん」の話がありましたが、これも1から10の数について各ページがでこぼこしていて、数えるものが飛び出して、数字がへこんでいるというふうに、視覚でもそうですし、触覚にも訴えている本です。もちろん視覚的に見やすいですし、さわって確認する

ことができます。数えるものは全て丸の数になっていますので、視覚的に不自由でない児童でも容易にさわって確認し、量と数字をあわせて自分で確かめることができます。また、数字も、数字の形にへこんでいるので、手でなぞることを通して形を覚えていくことができます。デザインの的にも美しくて、しかも本の装丁も丈夫なので、児童が繰り返し学習するのにも適していると考えます。

委員長 今、くもんの「やさしいすうじ」と、先ほど出てきた「デコボコえほん」の算数版の「デコボコえほん かずをかぞえよう！」があったんですが、関連して何かございますでしょうか。では、小島委員、よろしくお願いします。

小島委員 私も、小学館の「デコボコえほん かずをかぞえよう！」についてお話しさせていただきたいと思います。

低学年のお子さん等は、指先が感覚的に未発達のお子さんが多くいらっしゃると思います。この御本は、手にとっていただくと、本の装丁といいますか、紙の質がやわらかく感じます。でこぼこしている丸とか数字も、丸も大きくもなく小さくもなく、ちょうどいい大きさに、小さい手でも上手になぞったりとかさわるができるように感じます。中もととても簡潔に書かれておりまして、色もととてもきれいで、お子さんが皆興味を持つような御本だと思います。さわった感じで、数字ももちろん勉強できると思うんですけども、数学の御本として出ていますが、丸の形とか、色も一緒にお勉強ができるのではないかと思います。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。橘田委員、お願いします。

橘田委員 私は、くもん出版の「学力チェックテスト6年生」で、确实

にステップアップできるような習熟度への配慮がされているな
ということをもまず感じたのと、それから、自ら学習して、それ
に対して支援しやすい形式で構成されている。具体的に言うと、
余白が多いので添削をしやすい、余裕のあるレイアウトになっ
ているところも感心しました。また、マーカーペンによって繰
り返し練習できるページもあって、効果的にマンツーマンでの
指導がしやすいドリルだなと感じました。

委員長 今のは、くもん式の「小学ドリル算数 学力チェックテスト
6年生」のお話でした。

ほかにはいかがでしょうか。では、金子委員、お願いします。

金子委員 それでは、資料1の番号でいけば、2番と3番のくもん出版
の2年生と3年生のかけ算ドリルをまとめてお話をしたいと思
います。

これはずっとページを追っていくと、同じような問題をずっ
とやっているのかなと思うような形で、気がつくといつの間に
か少しずつステップアップをしている。ほんの少しずつなんで
すけれども、それによって定着のなかなか進まない児童生徒に、
これは恐らく中学校3年生でもこの需要がある児童生徒はいる
のではないかなと思うような内容で、広く使うことができるかな
と思っていました。何しろ繰り返しやっていくことによって自
分でも進められるというところで、特に3番の2年生のほうだ
けでいけば、算数は何もわからない子が一から復習しながら順
番に進めていける構成がいいのかなと。2番のほうですごく秀
逸だと思ったのは、前半はずっと1ページが全て20問で統一
されていて、問題のレベルが上がった後半は全部10問で統一
されていて、子どもがその気になって、「今日、20問終われば
これで1時間おしまい。」みたいな、そういう意欲を持ちながら
取り組めるととてもいい教材ではないかなと思っていました。

委員長 くもんはやはりそれなりに工夫されているということがよくわかりました。

今、算数・数学で5冊終わったんですけれども、まとめて何かご意見はありますか。では、高橋委員、お願いします。

高橋委員 ここまでで、国語で6冊、算数・数学で4冊と、ドリル形式の図書が取り上げられました。教科書なのになぜドリルというような疑問が出たりするかと思うんですが、特別支援教育にかかる子どもたちというのは、考え方を教えて、それで自分で応用していくというよりは、自分で実際に操作を繰り返してやる中で自分の中に身についていくというような特徴のある子が多いかと思います。

そういう意味では、文字、言葉、数、計算といった学びの本来に基礎の力というのを、その子のちょうど段階に合わせたところで、スモールステップで繰り返し行うということがとても大切だと考えます。授業ごとの積み重ねがしやすく、また、その都度、今日はこのページができたという達成感を持たせやすいという意味で、ドリル形式のものが選ばれていると考えます。

委員長 今、算数・数学のところで貴重なご意見をいただきました。算数・数学の5冊、よろしいでしょうか。

次は、生活・地図・社会ということで9冊挙がっております。それでは、生活・地図・社会でご意見のある方はいらっしゃいますか。細川委員、お願いします。

細川委員 私は、3番の「絵でわかるこどものせいかつずかん1　みのまわりのきほん」と、4番の「子どもとマスターする49の生活技術」についてお話をさせていただきます。

初めに、「絵でわかるこどものせいかつずかん」は、過去に体育・保健体育でも採択されているものです。こちらの本は、朝起きてから寝るまでの生活習慣に関する20の動作について取り上げられているものです。身近な生活場面での基本的な生活動作が親しみやすく、優しい雰囲気イラストと簡単な文でとてもわかりやすく説明されております。生活の中で繰り返して行われている身辺処理や日常生活に必要な簡単な決まりやマナーを学ぶことができるようになっておりますので、特別支援学級のお子さんにとってもふさわしい図鑑であるかと考えます。また、1つの場面についての動きがとても具体的に説明されています。例えば、「お風呂に はいる」という項目では、お湯につかる、体を洗う、髪を洗う、出るときは体を拭くという流れに沿って、大変細やかに具体的な動きが示されています。また、足の指の間も洗う、出るときは湯おけやタオルをもとの場所に戻すということまで押さえられておりますので、発達段階に合わせて、自分もやってみようという気持ちを育むことができ、自分のことは自分でできる、そういう力をつけさせることが期待できる本であると考えます。

続きまして、4番の「子どもとマスターする49の生活技術」です。こちらは、子どもたちにとって生きる力となる体の働きを学ぶことができる本だと考えます。立つ、座る、歩く、物を運ぶなど、49の体の動かし方が、学校、家庭、戸外、スポーツのそれぞれの場面に分けて示されています。それぞれ一つ一つにイラストがついておりますので、視覚を通して学ぶことができ、一人一人の学びに合わせた支援が可能であると感じました。生活習慣だけではなくて、人混みを歩くときのこととか、おじき、会釈とか、そんなこともイラストつきで説明されますので、社会性を学ぶことができるのではないかと思います。内容が大変豊富ですので、生活していく上でお子さんたちが必要なさまざまなスキルを発達に応じて学んでいくために適して

いる本であると感じました。

委員長 生活科の話でしたね。「絵でわかるこどものせいかつずかん」と「子どもとマスターする４９の生活技術」ということでお話をいただきました。

ほかにはいかがでしょうか。三橋委員、お願いします。

三橋委員 私からは、学研の図鑑２冊についてお話しさせていただきたいと思います。

「ジュニア学研の図鑑 乗りもの」について話させていただきます。乗り物ということで、鉄道、自動車、飛行機、船、いろいろな乗り物について幅広く解説されています。カラー写真、図、詳しい説明が載っているジュニア向けの図鑑です。新幹線、乗用車、旅客機、客船については、内部構造とか仕組みとかでかなり詳しい説明がされています。また、作業用の列車とか作業用の自動車、働く車などについても掲載されていますので、乗り物好きの児童は多いんですけれども、どれか１つに興味のある児童だけでなく、作業用の車があるということで、その乗り物を使った仕事に興味のある児童にも適しているのではないかと考えます。

続いて、その下の「日本の鉄道大図鑑 １１００ ＤＶＤ ２枚つき」というかなりマニアックなものなんですけれども、私個人的に欲しいなと思ったものなんです、ＪＲ、私鉄、路面電車問わず、日本の１１００種類の鉄道車両について、走行中のカラー写真と詳しい解説が載っている、鉄道車両に特化した図鑑です。ＤＶＤが２枚入ってまして、そのＤＶＤには５００の車両の走行シーンが解説とともに収録されている。ここが大事なんですけれども、その図書のほうも、ＤＶＤのほうも、地方別に掲載されているというので興味がありまして、各地のローカル線まで地方別に取り扱っているのです、これを地図学習とあ

わせて取り扱うと日本全国への興味・関心が広がり、都道府県の位置関係を理解するのに役立つのではないかと考えます。鉄道車両に興味のある児童は多いと思うので、そういう児童はとも食いつくいい本ではないかと思います。

委員長 今、三橋委員から、乗り物関係で、「ジュニア学研の図鑑 乗りもの」と、DVD 2枚付きの「日本の鉄道大図鑑」という本についての説明がありました。では、乗り物つながりで何かありますか。秦野委員、お願いします。

秦野委員 私は、「小学館の図鑑NEO 14 乗りもの 改訂版」と、その下の「デコボコえほん のりもの」というのをお話いたします。

三橋委員が言ったようなDVDはついていないんですけれども、「小学館の図鑑NEO」は、内容がとても豊富でした。私も、あっ、これはいいなと思って、好きな子にとってはたまらない内容になっています。ただ鉄道、働く車が載っているだけではなくて、例えば鉄道だったら、その鉄道がどこを走っているかの路線が示されているんです。なので、さっき三橋委員も言ったように、ではここの地図を開いて見てみようというような地図学習や日本の地方の学習につなげることもできますし、また、ただ乗り物が紹介されているだけではなくて、「駅へ行ってみよう!」「空港へ行ってみよう!」「港へ行ってみよう!」というページがありまして、そこで働いている人とか、空港での工夫といったものにも目を向けさせることができるので、社会の学習の広がりということでは、ただの図鑑ということではないなと思っています。あと、写真も後ろに山が写っていて、この山はどこなんだろうと、さっきの路線図とあわせて考えたりする、会話をするみたいなことも社会の学習では扱えるかなと思って、読みました。

「デコボコえほん のりもの」の部分は、「デコボコえほん」については先ほどからたくさん出ているんですけども、私もこれは手ざわりがとってもいいなと。しっとりとした、さわっているだけで癒やされるような装丁になっていて、先ほどから言っているようにでこぼこしているので、視覚的にちょっと不自由さを感じている子でも、例えば飛行機の形で、へこんでいるほうが鳥になっていたりしています。今まで述べられているようにやはりいろんな色のコントラストもはっきりしていますし、ああいったものに興味を広げて、そういう社会の学習に広げていける可能性もあるかと思って、このでこぼこというのがいいなと思って、さわって、読ませていただきました。

委員長 何回か出てくる「デコボコえほん」と、小学館の乗り物図鑑のお話をいただきました。

ほかにはいかがでしょうか。金子委員、お願いします。

金子委員 それでは、鉄道つながりからは離れて、地図つながりのほうで、5番と6番の小学館の「ドラえもんちずかん」、にっぽんちずとせかいちずのお話をさせていただきます。

地図というのは、1つ開くと物すごい情報量が入っていて、その情報を把握するのが苦手な子にとっては苦痛以外の何ものでもないのではないかなと思うんですけども、この本につきましては、1つのページにそれぞれ1つのテーマだけしか載っていない。それによって学習に取り組むことができやすい本になっています。ページの後ろのほうからめくっていくと、国旗とか、先ほども出てきた鉄道、料理、衣装とか、本当に子どもたちの興味を引きやすい特集がずっと並んでいて、各ページで「ドラえもん」がご案内してくれて、「ドラえもん」のご案内に従っていくといろんな勉強ができる。それだけではなくて、クイズが七、八問ずつついているんです。それを解いていくと、

都道府県の名前、国の名前、産業、文化という社会科の本質のほうに、少しずつですが迫っていける。そんな形で、気の散りやすい子どもにとって、地図、社会科を勉強するのに適した教材だと考えました。

委員長 1年生から6年生までみんな夢中になる「ドラえもん」ですものね、いいかなと思います。この「ドラえもん」について何かご意見はありますか。では、鈴木委員、お願いします。

鈴木委員 子どもたちがよく知っているキャラクターをうまく使っているなと思ったんですけども、「ドラえもん」がタケコプターで飛んでいる様子が地図とあわせてイラストと載っていて、一緒に飛んで、一緒に旅しているような気分になりながら学習ができるなと思いました。また、各国の民族衣装をキャラクターたちが着ていたりして、イラストのイメージで学習ができるというか、視覚優位のお子様とかにもすごくいい教材なのではないかなと思いました。我が家の文庫にも追加しようと思っています。

委員長 それでは、ほかにはいかがでしょうか。小林委員、お願いします。

小林委員 私からは、最後のひかりのくにの「マナーやルールがどんどんわかる！ みちかなマーク新装改訂版」です。内容としては、親しみやすいキャラクターが道路標識や郵便局、レストランなど、身近なマークを探しに行くような構成になっています。そういうことで社会生活にもいろいろな決まりがあることを知る題材になっていると思っています。そういう中で、マークは視覚的に訴えるものですので、いろんな意味で楽しんで覚えるこ

ともできますし、登下校とか、さまざまなところへ外出にしたときに、児童たちが自立して自分の安全を考え、自立して目的地に行くということが可能になってくる本ではないかなと思っています。

たくさんマークが出てくるので、この1冊でほぼマスターできたら、多分1人で外出しても、そのマークについて理解がされているので、安全も確保できると思いますし、活動範囲も年齢が上がるに従って広がっていくような基盤になっていく作品ではないかと思っています。また、対象児童の生活範囲、年齢というものに合わせて、全てをやるわけではなくて、この本の活用法をデザインするということも可能だと思うので、そういう面でとてもいい本だと思いました。

委員長 今、ひかりのくにの「マナーやルールがどんどんわかる！ みぢかなマーク」についての説明がありました。

ほかにいかがでしょうか。では、高橋委員、お願いします。

高橋委員 ここまでのところで、今回、「デコボコえほん」が3冊出てきて、実は視覚にも不自由を併せ持っていらっしゃる方に、今まではさわる絵本は1種類ぐらいしかなく、あと音の出る絵本が最近幼児向けにたくさん出てきたので、それをとるしかないかなみたいなところで、今回のこの絵本が出てきたことで、視覚の不自由さを併せ持っている子にはとてもありがたいと思っています。自分から主体的に本に向かう力みたいなものを出させるためには、やっぱりこういう仕掛けがとても必要なので、可能性に満ちた本かなと思いました。

それから、乗り物シリーズがたくさん出ていて、乗り物に興味・関心のある子はとても多い、興味・関心に偏りがある人にとりわけ多いかなと思うんですけれども、そこに必ずしも寄り添わなくてもという考えもあるかもしれませんが、多分そうい

う関心とかに偏りのある子は、これが教科書ですという形で本を押しつけてもなかなか向かいにくい。でも、その子にこちらが合わせてあげるところから本に関心を持たせる、また、それを介して人とかかわりを楽しむとか、その本に出てくることで、先ほどの地図とかそういうことにつなげていくという工夫ができるという意味では、特別支援の子どもたちに、その子に合わせた興味・関心の部分の本を選べるということはとてもよいことかなと思っています。

委員長 今、生活・地図・社会で9冊、ご意見を伺いましたが、ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

次に、同じく生活・理科へ移りたいと思います。生活・理科も7冊出ております。それでは、生活・理科についてご意見がある方——門河委員、お願いします。

門河委員 私は、生活・理科の中の体に関する本で2冊お話をしたいと思います。

まず、1番の学研「どんどんめくってはっけん からだのふしぎ」です。これは絵をめくることができて、体の絵があって、そこをめくると体の内部が出てきて、そこをまたさらにめくると、その中の消化の働きですとか、成長の仕組みというのが見られるという大変凝ったつくりになっている絵本で、めくる場所が100ぐらいあるんですね。そうやってとても楽しく見ていくことができる本です。特にめくるという作業に興味を持つ児童にとっては、この本があることで集中して取り組むことができるのではないかと思います。また、体の絵というのは、子どもにとっては少し気持ち悪いとか、怖いと感じさせるところがあるんですが、この絵はそれほどリアルでなく、小学生にもなじみやすい描かれ方をしているのもよいと思いました。

もう1冊の「あそびのおうさまずかん1 からだ」ですが、

こちらにも豊富な親しみやすいイラストと、きれいな写真を通して体のことを知ることができます。児童が自分の体のこととか、あとは病気のこと、何なのとか、どうしてといった興味や疑問を持ったときに、これを見て学ぶのに適していると思います。また、人間だけではなくて生き物の体の部分、例えば目でしたら、人間の目があり、さまざまな動物の目があり、昆虫の目がありということで、ぱっとそういうものが一緒に取り上げられているページがあって、それも興味を広げるのにも役立つと思います。この図書は体育・保健体育でも希望が上がりておりますが、保健体育で体のことを学ぶのにも非常に適していると思います。

委員長 今、生活・理科の話で、体について出てきていますが、ほかにはいかがでしょうか。それでは、岡委員からお願いします。

岡委員 それでは、私からは、ひかりのくにの「こどものずかん 9 からだとけんこう」について触れたいと思います。

この本は、既に体育・保健体育で採択をされています。小学校の生活科に対応してしまして、物をおいしく食べたり、友達と楽しく話したり、元気よく遊んだりなど、ふだんの暮らしの中で普通に行っていることを体の仕組みに関連づけて解説をしています。絵や写真が非常に豊富で、動物に例えることも多く、子どもが興味を持って学べるような工夫がしてあります。体の仕組みが題材ですので、内容的に高度でありながら、「ためしてみよう」や、コラムがあることで、楽しみながら、また日常の行動と結びつけながら学習できるようになっています。また、「お母さんへ」のコーナーでは、子どもの健康についての豆知識が記載されておりまして、親子で一緒に読むことで、子どもだけではなく、親としての視点でも学ぶことができるようになっています。食育の視点から、バランスのいい食事が健康にと

って大切であることや、心の健康についても触れておりまして、現在の学校教育の新しいニーズにも対応している書籍だなと感じました。生活・理科、体育・保健体育、どの教科においてもふさわしい教科書になり得るなと思います。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。では、清水委員、お願いします。

清水委員 私からは、5番、偕成社の「子どもの健康を考える絵本（5）こんなときどうするの？」について述べさせていただきます。

この本も体育・保健体育で採択されておりますが。子どもの生活にかかわりの多いけが、事故、それから子どもの体に起きていることに対する正しい処置の仕方を絵と文でまとめてあるんですけれども、絵が具体的なんです、大変やわらかいタッチで描かれているので、難しい内容なんですけれども理解しようという気になる、そういう工夫が感じられます。子どもが自分の体のことを自分で考え、自分の身を自分で守るということを考える第一歩になると思いますし、同時に、一緒に読む大人が正しいしっかりした知識をもとに子どもと向き合えるような内容も含まれていると感じました。

続きまして、もう1冊、7番の福音館の「かがくのとも傑作集（どきどき・しぜん）みんなうんち」について述べさせていただきます。この本は有名な本ですけれども、やっぱり体育・保健体育で採択されております。大変特徴のある飽きのこない絵で、子どもの興味を引きつけ、この絵が大好きだという子どもも大変多いと思います。リズムカルな文体であるとともに、体言どめを用いて、ユーモアあふれる内容が書かれています。文字も大きいです。誰にとっても身近なうんちという内容を読み手に少しずつ少しずつ違いを想像させる工夫がされています。そして最後に食べるということに移行することで生きることへのつながりを持たせているという本であると思います。

委員長 「みんなうんち」のお話でした。

ほかにはいかがでしょうか。では、加瀬委員、お願いします。

加瀬委員 私は、育成会の「自立生活ハンドブック5 ぼなぺていどうぞめしあがれ」についてですが、簡単な料理をつくっている過程を写した9枚から12枚の写真で紹介しています。この写真を順番に追っていくと料理が完成できるようになっています。給食などを活用した食育によって、食べることの大切さとともに、おいしく食べるための調理についても関心を持たせ、豊かな食生活に結びつけることが期待できる図書であると思います。

委員長 今のは「自立生活ハンドブック5 ぼなぺていどうぞめしあがれ」ですね。

ほかにはいかがでしょうか。門河委員、お願いします。

門河委員 2番の「学研の図鑑3 増補改訂動物」の図鑑についてお話をします。

先ほど乗り物の図鑑の話が出ていて、非常に魅力的だなと話を聞いていても思ったんですが、動物もとても好きな児童が多いと思います。この図鑑も非常に豊富な美しい写真が掲載されていて、たくさんの動物を見て、本当に好きな子はきっと、ちょっと舌をかみそうな難しい動物の名前を覚えて楽しむんだろうなと思いました。また、この図鑑には「動物の情報館」というコーナーがあって、そこでいろいろな動物の特集があるんですけれども、私が興味深かったのは、昔話に出てくる動物たち、ことわざ、慣用句に出てくる動物たちというコーナーがあって、そこで動物の紹介がされていました。これは理科の学習ではないのかもしれませんが、いろいろ日常で使う言葉に出てくる動

物ということをここで紹介することで、関連していろいろな興味を広げることができると思います。

あと、楽しい仕掛けとして、巻末に「動きのわかるしましまボード&シート」というのがあって、縦線の赤い線がついたシートを本に当てて左右に動かすと、動物がリアルに動く様子が見えるんですね。チーターが走る様子ですとか、コウモリが飛ぶ様子がとてもリアルに再現されていて、本当に何度もやってみたくなる、そういう仕掛けもあるということで、子どもたちがとても楽しめるものになっていると思いました。

委員長 ただいまので生活・理科7冊全て終わったと思うんですけれども、まとめて何かご意見はございますか。高橋委員、お願いします。

高橋委員 先ほど「自立生活ハンドブック」というシリーズで、調理にとってもいいような本が出ましたが、実はこのシリーズは、手をつなぐ育成会という知的のお子さんの親御さんとかがつくっている会が発行元で、そういう自分たちに関連する子どもたちによい本をとということで出版をしています。先ほど国語で挙げられていた日本教育研究出版の「ひとだちするための」というシリーズとか、今回挙げられませんでした。東洋館でくらしに役立つ何々というシリーズがあって、今、特別支援の子どもたちに向けたそういうシリーズ本が少しずつ増えてきて、とても採択しやすくなっている。だから、いわゆる大きいお子さんも、中学生、高校生についても本当に自立する、将来社会に出て役立つという意味で使える本が出てきていて、ありがたいなと思っています。

委員長 それはいいことだと思います。

それでは、生活・理科は終わりました。続けて、音楽・器楽、

図工・美術の 7 冊についてお話を伺いたいと思います。いかがでしょうか。では、橘田委員、お願いします。

橘田委員 それでは、「英語うたの絵じてん」、三省堂の本ですけれども、選曲について難易度がよく考えられていて、学年を超えてさまざまな児童に対応できるように編修されていると感じました。あと、日本語に訳されていて、広く知られている楽曲も多くて、音域も無理なく歌えるように設定されている点も配慮が十分されているなと感じました。あえて楽譜を入れていないことによって文字に集中できるのかなというところもあり、その分、絵と文字のバランスも十分配慮されていると感じます。付属の C D については、シンセサイザーが中心のシンプルな伴奏で、歌は英語の発音がとてもわかりやすく聞こえるようにしっかり歌っているなと感じております。

委員長 ほかにはいかがでしょうか。では、加瀬委員、お願いします。

加瀬委員 私は、岩崎書店の「あそびの絵本 えかきあそび」についてですが、いわゆる絵描き歌ということで、歌と絵を並行して行うことは複数の刺激を同時に受けられることになって、さまざまな能力の伸長に効果が期待できると思います。また、簡単な図形を組み合わせることによって、動物などの特徴をつかんで簡単に表現できることで、絵を描くことへの苦手意識をなくして自由な表現へつなげるきっかけになったり、また、同じ形でも色や模様を変えると違う果物になったりと、音楽だけでなく、絵に対する興味・関心を広げることに期待できる図書だと思います。

あわせて、図工・美術で、学研の「あそびのおうさまずかん 1 2 リサイクルこうさく 増補改訂」についてです。こちらは不要になったいろいろなものを使ってつくるリサイクル工作

のアイデアを多数紹介しています。初めは、ここに紹介されているものをつくって、同じようにまねしてつくってみることから始めて、そこから不要になったものから自由に発想して工作することにつなげることで発展できると思います。さまざまな機会に、不要な物のごみとして捨ててしまうのではなく、何かに生かせないかなという発想に結びつけるきっかけになる図書だと思っています。

委員長 ほかにご意見はいかがでしょうか。では、飯田委員。

飯田委員 私からは、図工・美術の4番、小学館の「あーとぶっく ひらめき美術館第1館」についてお話しさせていただきます。

とてもきれいな写真がたくさん出ていて、本当に美術館を訪れているような気分になり、この本の世界に引き込まれる感じがしました。この図書は、世界中の有名な美術作品を楽しくわかりやすく解説しながら、作者の紹介や時代背景なども載せています。シンプルで読みやすい文面なのですが、内容は大変盛りだくさんだと思いました。それぞれの作品をわかりやすく、興味を引かせるように上手に解説していて、楽しく学習できると思います。

例を挙げますと、ピカソのページでは、タイルに描かれた1つの顔から幾つもの気持ちをあらわしているのだと解説しています。そこから、人間の表情というのは本当におもしろいとなげています。「ミロのヴィーナス」のページでは、「腕を想像して描いてみよう」というコーナーがありました。子ども自身が想像をめぐらせながら参加して楽しめる本だと思います。美術が好きになるいいきっかけになると思いました。

委員長 今、「あーとぶっく ひらめき美術館第1館」のお話がありました。ほかにはいかがでしょうか。では、志水委員、お願い

します。

志水委員 私も、小学館の「あーとぶっく ひらめき美術館第1館」を拝見させていただきました。おっしゃったように、美術の教科書に載っているような有名な絵画ですとか作品が載っておりまして、それも本当にわかりやすい文章なので、子どもたちはとても取っつきやすいだろうなと思いました。それを繰り返し見たり、読んだりすることで、子どもたちには、型にはまらない自由な発想とか、そういった想像力を育むこともできるのではないかと感じました。「ミロのヴィーナス」の腕も、自分ではなかなか想像できないんですけれども、子どもたちはきっとたくさんのが浮かんでくるだろうなと思いましたし、「ピカソになった気分で絵をかいてみましょう」ということもあって、表現する楽しさというのを実感できるようにつくられていて、よいなと感じました。

もう1冊、金の星社の「あかちゃんとおかあさんの絵本 このいろなあに」も拝見いたしました。こちらはピンクから始まって紫まで10色の色を紹介しているんですが、ストーリーを追いながら色を覚えていけるようになっているので、読み聞かせてもいいでしょうし、あるいは自分で声に出しながらなど、楽しみながらいろいろな色の学び方ができると思いました。また、見開きのページの半分が色だけになっている斬新なつくりになっているんですけれども、左側には切り絵風の挿絵が入っているので、図工の学習での作品づくりですとか、表現方法の参考にも使える本だなと思いました。

委員長 「あーとぶっく」と「あかちゃんとおかあさんの絵本 このいろなあに」についてのお話がありました。

ほかにはいかがでしょうか。小林委員、お願いします。

小林委員 私からは、2冊お話ししたいと思います。

1冊目は、学研の「あそびのおうさまBOOK うれシール
たのシール」です。これはシールを下絵に張ると絵が変身して
いく構成になっています。どんどんシールを張っていくと変身
していくというので、本当に楽しんで使える本だなと思っています。
学習者が好きなように好きなだけシールを張るので、自
分だけの本ができるというのも子どもにとってはとても豊かな
気持ちになれるのではないかなと思いますし、また、シールを
張ることで本がどんどん変化していきますので、創作意欲とか、
それから主体的に取り組む姿勢というものも身についていくの
ではないかと思って、いい本だなと思いました。

それから2冊目は、誠文堂新光社の「よく飛ぶ 高性能 紙
飛行機」です。これはつくる技術も必要になると思うんです
けれども、細かい説明がついておりますし、巻末に紙型がつい
ていて、7種類の飛行機がつくれるようになっているんです。
ですから、指導者とともに作製していくと、飛行機をつくる楽
しさ、一緒に飛ばす楽しさとか、それにプラスして、作製する
技能というものも、手先とか、飛行機をこうやって投げるとき
の技能も含めて身についていくのではないかと思いました。し
かも、飛行機ですので、教室ばかりにいないで、広い公園とか、
安心な場所を探すのは難しいかもしれないんですけれども、グ
ラウンドでもいいんですが、室外の広い場所で飛ばすというこ
とで、開放感とか、それから飛行機がずっとそこを飛んでいく
姿を見て、心の中に広がっていくものが子どもを豊かにしてい
くのではないかなと思いました。

委員長 今、音楽と図工で7冊、ご意見をいただきましたが、音楽、
図工でご意見はほかにございますか。よろしいでしょうか。

それでは、残りわずかとなってまいりました。家庭科、体育、
英語、道徳、全部合わせて8冊のご意見をいただきたいと思います。

ます。いかがでしょうか。それでは、門河委員、お願いします。

門河委員 私からは、家庭・職業家庭のところでとられている2冊の図書についてお話しさせていただきます。

 さえら書房の「たのしい工作教室 木のぞうけい教室」です。これは、もう既に図工・美術のほうでは採択をされている本です。枯れ木や割り箸、木切れなど、身近な材料を使ってさまざまな作品をつくるということで、技術の作業を行うということでは適当だと思われます。また、作品づくりも、難易度がそれぞれですので、学習者の様子に合わせて、今回はこれ、次にこれというふうに取り組ませることができると思います。また、出ている作品を見ながら、そこから自由な発想を持って表現させるということもできるのではないかと思います。

 次に、福音館の「幼児絵本シリーズ やさい」です。これも既に生活・理科のほうでは採択をされている本です。畑で育った野菜がまずあり、次のページをめくると八百屋さんに並んだ野菜があるということで、それぞれの違いを絵と文でわかりやすく示しています。非常にやわらかい色調で描かれていて、児童には親しみやすい内容になっていると思います。こうやって見た野菜を使って、その調理実習をするなどという家庭科の学習にふさわしいのではないかと思います。

委員長 以前、図工・美術で採択されている「たのしい工作教室」と、「幼児絵本シリーズ やさい」についてのお話でした。

 ほかにはいかがでしょうか。それでは、細川委員、お願いします。

細川委員 私からは、体育・保健体育の2番、「絵でわかるこどものせいかつずかん」についてお話しさせてください。

 こちらは、先ほど私は生活・地図・社会のところでもお話を

させていただいたんですけれども、そこで過去にも体育・保健体育で採択されていますとお話ししてしまったかと思うんですけれども、こちらは今回新しく、体育・保健体育でも採択が申請されている本でした。

こちらの本は、先ほどもお話ししましたように、生活習慣に関する体の動きについて学ぶとともに、身の回りや体を清潔に保つこと、それから健康に過ごすための生活習慣も学ぶことができますので、体育や保健体育の学習の活用にも適切な本であると思います。

委員長 先ほど出てきた本ですね。

ほかにはいかがでしょうか。岡委員、お願いします。

岡委員 私からは、2冊触れたいと思います。

まず初めに、体育・保健体育で、ひかりのくに社の「たべもの202」です。この本は、既に国語・書写、生活・理科、家庭・職業家庭で採択されています。子どもが食べ物に興味を持ち、何でも好き嫌いなく進んで食べられるようにという願いを込めてつくられています。「あいうえお」から始まる平仮名順にさまざまな食べ物が写真入りで202種類も紹介されていると同時に、平仮名の書き順や片仮名も示しているために、ただ単に食べ物の名前を覚えるだけではなく、文字の勉強やしりとりで遊ぶこともできます。また、紹介されている食べ物の種類も、イチゴやネーブルなどの果物、大根やナスなどの野菜、マグロやサバなどの魚、シチューや酢豚などの料理名、アップルパイやチョコレートなどのお菓子、湯豆腐や塩焼きなどの加工方法など、非常に多くの種類が掲載されています。つくり方こそ書いてありませんけれども、料理本よりも種類が多く、本と同じものを食卓に載せることで、さらに子どもの興味・関心が高まることが予想され、学校と家庭の連携にも役立つのではな

いかと思います。さらに、ところどころにクイズコーナーやしりとりコーナーがあり、楽しみながら学べるようになっていきます。また、1 ページ 1 ページが非常にかたくしっかりとできているために、多少乱暴に扱ってもだめにならないという丈夫さもあります。

続いて、道徳で、三省堂の「こどもマナーとけいご絵じてん」です。この本も既に過去に生活・地図・社会で採択されています。生活に密着したテーマを取り上げて、具体的なマナーの場面が絵でわかりやすく提示されており、興味を持って学ぶことができるようになっていきます。主として、家庭、学校、公共の場でのマナーが取り上げられていますが、それも朝からの1日の流れを意識したつくりになっており、自分の生活に合わせて理解することができるようになっていきます。例えば家庭では、朝起きてから出かけるまで、帰ってからねるまで、食事のとき、食事のしたくとあとかたづけ、そうじ、せんたくをするとき、トイレ、お風呂を使うとき、るす番をするときはなど、家族の一員としての役割も意識させるつくりになっています。また学校では、登校するとき、教室の中で、給食やそうじのとき、ろう下や階段で、校庭に出るときは、水飲み場やトイレで、しょくいん室に入るときは、ほけん室に行くときは、さらに外出のときには、公園で遊ぶときは、買いもののときは、デパートやショッピングセンターで、ファミリーレストランで、病院に行くときは、海や山に行くときはなど、非常に細かくたくさんの場面が用意されており、日常の生活のほとんどが網羅されています。

特別支援学級のお子さんは、事前に絵などを見ながら準備することがとても大切ですので、これだけ多くの場面が用意されている本書は、低学年の児童から高学年の児童まで効果的に使える図書だと思います。また、マナーだけではなく、敬語についても場面ごとに取り上げられていますので、言葉の指導にも

使える本になっています。

委員長 今、「202シリーズ たべもの202」、それから、道徳で取り上げている、過去には生活・地図とかで取り上げられていた「こどもマナーとけいご絵じてん」の2冊についてお話を伺いました。関連してございますか。では、飯田委員、お願いします。

飯田委員 私も、三省堂の「こどもマナーとけいご絵じてん」を見させて頂きました。

今お話があったのと同じ内容なんですけれども、この図書には基本的な生活習慣や社会の中で生活していくための心構えが書かれていまして、それぞれの手順をシンプルで見やすいイラストでわかりやすく解説していると思いました。大人向けの解説のコーナーがありまして、子どもに伝えるべきポイントがわかりやすくまとめてあるので、そちらも大変よいと思いました。また、テーマごとの「えがおのじかん」というコーナーがありまして、それに沿って授業で話し合うことにより、さらに子どもたちの理解を深めることができるなと思いました。

委員長 それでは、高橋委員。

高橋委員 これまでのところで、図鑑の形式の本がかなり多く選ばれていたと思います。写真やカラー図版を多用して編修されているので、視覚的なものが優位なお子さんについてはやはり興味・関心が呼び起こしやすいということと、あと文字や文章が少な目であるということで、読解力が十分でない子どもにも理解しやすいという意味では、この子たちには多く選ばれているのかなと思います。また、堅牢な装丁というのが子どもたちには丈夫で扱いやすい、1年間もつみたいなところもとても理由にな

っていると思います。本好きのきっかけが図鑑だという子は今までたくさんおりました。

委員長 そのとおりですね。図鑑から本が好きになるという子はたくさんいると思います。ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

今、「たべもの202」、「こどもマナーけいご絵じてん」についてお話をいただいたんですけれども、ほかのところで、今の項目の中でいかがでしょうか。家庭科、体育、英語、道徳の中でご意見をいただきたいと思います。では、清水委員、お願いします。

清水委員 では、私からは、英語の2冊の本について述べさせていただきます。

まず、三星堂の「親子ではじめる英会話じてん1 らくらくひとこと編CD付」ですけれども、これはなかなかいいですね。日本語も、英語も、日常使っている話し言葉が大変多くて、文法的なことを細かく考えずに、すぐに使える英会話の表現が紹介されています。また、「重要表現さくいん」というのが巻末にあるんですが、直訳ではなく、これって英語では何て言うのという日本語の発想で調べることができるという工夫がされています。さらに、この本は絵が外国人風になっていて、いかにも外国語が聞こえてきそうな雰囲気、表情がありまして、短い会話なんですけれども、大変躍動感ある会話が絵から想像されるというところがやはり絵本を見ながら学ぶ点でいいと思います。タイトルの親子のとおり、2人の会話が基本になっておりますので、役割を分担して練習することができるというのもよい点だと思います。

続きまして、新星出版の「頭のいい子が育つ英語のうた45選」です。これもCDがついているんですけれども、頭のいい

子ということで何かなと思ったんですが、英語に親しみ、興味・関心を高めるために、英語の音、特に歌を聞くことは効果的な方法の1つだと思います。自然に発音、リズム、イントネーションが付き、いわゆる英語脳が頭の中にできてくるわけなんです。45曲もあるんですけれども、そのうちの16曲は「世界への好奇心が芽生える英語のうた」として、古典的な名曲からポピュラーヒットした曲まで、明るく楽しい曲が紹介されています。長い曲も結構あるんですけれども、とにかくメロディーが非常に印象的で、私たちも英語の勉強のときに、中学校時代に聞いた有名なアーティストの曲のように、一発で何かお気に入りの曲が必ずや1曲や2曲子どもにできてしまうのではないかと思います。次の29曲は「親子で一緒に楽しく歌おう英語のうた」となっていますので、今度は短くて歌いやすい曲が紹介されています。みんなで歌うことができるというふうに工夫されております。各曲1ページだけの挿絵になっておりまして、その1ページだけでその曲の雰囲気や情景が伝わるように工夫されており、それを見ていて楽しむことができます。なお、巻末には英語を歌うときのポイントが指導者向けにあり、さらに片仮名によるルビつきの歌詞もちゃんとついていますので、子どもは耳がいいので多分どんどん聞き取ってしまうと思いますが、大人も安心して子どもをリードできるように配慮されているというので、使いやすい本だなと思いました。

委員長

ルビつきというのは大事だと思います。

それでは、今、家庭・職業家庭、体育・保健体育、英語、道徳と一通りご意見をいただいたんですけれども、このところではいかがでしょうか。ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、これで、新と書かれた新規図書、そして、□の印がついている複数種目で希望がある図書全てについて一通りご意見をいただきましたが、全体を通して、何か追加でご意見等

はございますでしょうか。もう 1 2 時も過ぎて皆さんお疲れで
しょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ほかに意見がないようですので、議題 2 「平成 3
0 年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援
学級用教科用図書について」の審議はここまでといたします。

引き続き、議題 3 「平成 3 0 年度使用藤沢市教科用図書に関
する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。

それでは、私から、議題の答申についてですが、教育長から
の諮問に、採択方針や調査研究の観点に基づき審議し、その内
容を答申するとありました。この第 2 回の審議委員会では教育
委員の皆様にも傍聴していただき、審議をしてまいりましたが、
審議内容が多岐にわたっております。特に議題 1 の「『特別の
教科 道徳』の教科用図書について」は、皆さんに観点ごとに
審議をしていただきましたので、ちょっとわかりにくいかなと
思います。発行者ごとにどんな特徴があるか、わかりやすくま
とめる必要があると私は考えています。また、議題 2 の「特別
支援学校及び特別支援学級用教科用図書について」は、新規図
書や複数種目で希望のある一般図書を 1 冊ずつ審議してきまし
たので、会議録を答申に当てるという形が適切かと思います。

したがって、議題 1 の道徳の教科用図書の審議について、
委員の皆様のご意見を教科書の会社ごとにまとめた資料を私の
ほうで作成し、本日の議事録に添付して答申するという形で御
一任いただけますでしょうか。三橋委員、お願いします。

三橋委員 委員長のご意見に賛成です。今回初めて採択される道徳科の
教科書の審議ということですし、教育長からの諮問に関しては、
教科用図書の採択に当たって、公正かつ適正を期し、学校、児
童生徒、地域等の特性を考慮して採択することが求められてい
るとありましたので、よりわかりやすい審議内容を答申する必

要があると思います。

委員長 ありがとうございました。ほかにご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

 それでは、議題３「平成３０年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」は、私、審議委員長が議題１「平成３０年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書について」の審議内容を発行者ごとにまとめた資料を作成し、先ほど行われました平成３０年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の会議録に添付して答申することといたします。会議録につきましては、添付資料もあわせて、私と署名委員の金子委員で確認した後、答申するようにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、議題３についての審議を終了いたします。
 これで予定されていた議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して皆様から何かご意見はございますか。

各委員 なし。

委員長 それでは、事務局から何かございますか。

事務局 それでは、今後の予定について説明いたします。
 事務局といたしましては、今後、本審議委員会の会議録を作成いたしまして、審議委員長に御確認いただきます。審議委員長は、道徳の教科用図書についてのご意見を発行者ごとにまとめた資料を作成いただき、その資料を添付して署名委員に確認をしていただきます。その後、審議委員長から教育長への答申

を行うことになりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

委員長

ありがとうございます。

それでは、これもちまして全ての審議を終了いたしましたので、第2回平成30年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員

第2回平成30年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会

議案第1号

「平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書について」

会議録添付資料

平成29年7月

藤沢市教科用図書採択審議委員会

第2回平成30年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会

議案第1号「平成30年度使用小学校用「特別の教科 道徳」教科用図書について」

発行者別会議録まとめ(概要)

◇東京書籍

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点
道徳の授業では、価値観を押しつけず、物事を多面的・多角的に考え、深めることが大切である。 学びの手引きのようなものは、どの先生も一定レベルの授業をするには便利な反面、逆に誰がやっても同じ授業になってしまうというリスクがあるが、東書は、読みものに記載されている考え方の視点などがあっさりとり上げられているので、教師の力量や考え方に応じて使い分けることができる。
「いじめ問題」を重要項目として取り上げ、「いじめのない世界」として、各学年で直接的・間接的な2つの教材を連続して学習できるように配列している。 (例) 2年 ○教室での具体的な行動の中から「勇気ある行動とは何か。」 ○かっぱの話から友だちのことを考え、自他を敬愛する気持ちに気づくようになっている。 6年 ○日頃さりげなく使っている言葉で相手を傷つけていることに気づかないことから、コミュニケーションの大切さを考える。 ○マンションのピアノの音をうるさく感じるのは、人間関係の希薄さも一因としてあることの例を通して、「相手も自分も大切にするには、各々がどのような行動をとったらいいのか」を考える。 「いじめは悪いこと」「自分の安全を確保すること」を判断する力を養うだけでなく、多面的・多角的に「いじめ問題」と向き合い、自然と豊かな「道徳的心情」を育み、力をつけていく内容になっている。
近年低学年のうちから学校でも家庭でもSNSについて問題になっていることから、授業の中で扱ってもらえるとありがたいと感じている。 情報モラルについて、おうちの人と一緒に考えようというテーマで、家庭でも話しやすい内容になっていて良い。 6年では、携帯電話のルールについて二組の保護者の異なる意見を子どもたちそれぞれがどう考えるかを議論する内容があった。自分の家庭のルールを守りながら、友達の家庭のルールを理解するのに、大変良いと感じた。
観点② 構成・分量・装丁、表記・表現
色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。
特別支援教育の有識者が校閲に入っているとうたわれていて、改行の工夫や読みやすい字体など、表記に配慮が感じられた。
道徳的な価値観に対して自己の変容を実感しやすい構成であるという点での工夫を見ると、2年生以上の巻末に「学習のふり返し」を簡潔に書き込める記入欄があり、各学期末に記入した自らの考えを、視覚的に見比べて同一面で捉えられる表記になっており、考えの深まりや心の変化など、自身の成長を実感しやすい工夫がされている。 「学習のふり返し」の欄は、自己評価や教師側の評価資料としても、有効に活用できる。
挿絵や紙面のバランスが、気持ちよい。写真と挿絵のバランスがとても良い。 低学年では挿絵が多く、高学年では素敵な写真が多く使われ、心で感じられる工夫がされている。 挿絵も変に子どもっぽくなく、その(発達)段階に合った挿絵がある。 巻末の折りこみページの写真も素晴らしく、自然への畏敬の念や四季の移り変わり、日本の伝統文化など心で感じられるような扱いがされている。 余白がきちんととられており、学んだこと、気づいたことを書きこむような使い方もできる。
巻末「つながる 広がる」の写真に感動した。写真と合わせて自然や文化を勉強するのにとてもよい。 子どもたちが考えて話し合い、自分の地域の自慢できるところを見つけるのにとてもよい。

◇東京書籍

観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連

本市で力を入れている安全防災教育という観点で、重点を置いて編修していると感じた。

単に防災や災害を扱うのではなく、他のことを考える材料として扱っている点が良い。

例えば、「人とのつながり」や「生命自然保護」という内容の中に、防災や災害に関する教材が自然に織り込まれている。全体を通して育てていくことができる編修となっているところがよい。

自分の生活と関連づける課題設定がされている。例えば、6年「土石流の中で救われた命」、5年「一本松は語った」などでは、多くの人々との支え合いや助け合いで成り立っていると思ったことはありますか？という切り口での課題設定になっており、子どもたちの考え方を進めていくうえで適切な設定であると感じた。

本市で力を入れている環境教育について、6年「タマゾン川」など、身近で考えやすい教材として載っていて、1年から6年まで系統的に扱っている。

神奈川県は、全国で2番目に外国籍児童が多い都道府県であり、本校にも国際教室が設置されており、低学年にも外国籍児童が在籍している。多国籍の児童と一緒に学ぶという点でも、道徳においても国際理解の視点は大変重要であると考えている。

1年で、外国の子どもとの関わりに関する教材が入っており、藤沢の子どもたちが1年生から外国の児童との関わりについて考えることができるというのは、大変よいことだと感じる。

2年「かむかむメニュー」がある。本市の食育や給食で扱っているため、子どもたちの意識が向いていくのではないかと感じる。

4年の「走れ江ノ電光の中へ」は、電車だけでなく、その走っている風景も思い出されるように描かれていて、子どもたちの心がずっと寄っていくのではないかと感じる。

◇学校図書

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点

「自ら感じ、自ら考える教科書」として、「読みもの」「活動」の二部構成で「考え、議論する道徳」を具現化する工夫をしている。

「読みもの」では発問を分離し、子どもの主体的な学びを促し、より自由な授業展開が可能になるよう工夫されている。

分冊の「活動」では、内容項目ごとに紙面が構成され、発問には「はなしあおう」「かんがえよう」「みつめよう」等の活動マークを付けている。

「はなしあおう」…人物になりきって考えたことを話し合うことを促す。

「かんがえよう」…お話の出来事や人物の様子、気持ちを考える。

「みつめよう」…お話を通して考えたことをもとに、自分を見つめることを促している。

さらに、その教材に最適な学習活動を「アクティブ」というマークによって例示し、先生がアクティブに新しい授業スタイルを目指しやすく構成されていると感じた。

「特設ページ」を加えて、一つの内容項目で、見開き1ページとなっているため、学びの記録としても見やすい。

「読みもの」と「活動」の2分冊で構成されている。

「読みもの」は、純粋に資料のみが掲載されていて、設問や児童の考えを誘導するような言葉が一切書かれていないので、多様な授業展開が可能になり、児童に考えさせることができる。

「活動」も設問が子どもの素直な気持ちを引き出すものになっていて、恣意的な内容になっていないという点も優れている。

道徳の授業では、価値観を押しつけず、物事を多面的・多角的に考え、深めることが大切である。

活動編は、どの先生も一定レベルの授業をするには便利な反面、逆に誰がやっても同じ授業になってしまうというリスクもあるが、読みもの編と別冊になっているので、教師の力量や考え方に応じて使い分けがしやすいと感じる。

保護者向けのメッセージがあった。分冊の「活動」というノートに「保護者の方へ」という欄があり、この教科書で目指すことやそれに対応する教材が一覧となっている。

道徳は特に、家庭教育とは切り離せない、密接している。日頃から学校で教えることと家庭が教えることにギャップがあると子どもが戸惑うと思うだろうと思っていたので、細かな記載があることで連携しやすいのではないかと感じた。

観点② 構成・分量・装丁・表記・表現

色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。

すべての教材について見開きの右ページから始まるように構成している。

昨今、注意がそれやすい子、集中しにくい子への配慮ということで、教室環境などでも余分な刺激を排除するといった配慮がなされているが、教科書についてもこの配慮は有効であると思われる。

一つの教材の分量についてですが、心情を扱った読み物教材は長い分量、考え、議論につなげる教材は短い分量、というように、テーマに応じて分量を適切に配分している。

付属のノートは、低学年の子どもたちには重たいと思われた。

観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連

本市で力を入れている安全防災教育という観点で、重点を置いて編修していると感じた。

東京オリンピック関連で、4年のコラムに1964年の東京オリンピックの江の島ヨット競技に関する内容がある。

オリンピック関連では、6年「オリンピックのくれたもの」は、長野オリンピックで通訳のボランティアをした祖母の話。

本市でもオリンピックが開催されるが、ボランティアとして関わることができることを知ることもできる教材であると感じた。

◇教育出版

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点
実在の人物を多く取り上げており、社会的な状況を反映させる題材となっているため、児童の興味が社会的課題へとつながっていくように工夫されており、教師もそれに基づいて工夫ができると考える。
近年低学年のうちから学校でも家庭でもSNSについて問題になっていることから、授業の中で扱ってもらえるとありがたいと感じている。
学びの手引きのコーナーが充実し、情報モラルについても、多くの課題について話し合えるよう工夫されていた。
6年では、食事中的メールを扱うマナーについて考える内容があった。インターネットトラブルの事例を扱うものが多い中で、基本的なマナーを考えるよい内容であった。
観点② 構成・分量・装丁、表記・表現
色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。
1単位時間の中で、資料の内容を理解し、考えを深めるということを基本と考えると、資料の分量が適切である必要がある。
その点で教出は、全体的に資料の長さが比較的コンパクトにおさえられていて、内容も児童にとってわかりやすい。
内容を理解したあとの、討論したり考えを振り返ったりする時間が確保でき、1単位時間内に完結する時間配分での授業が可能である。
観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連

◇光村図書出版

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点

子どもたちに道徳性を養うためには、物事を多方面から捉えたり、様々な角度から考えたりする機会を設定し、多様な感じ方や考え方に触れさせる授業を行うことが大切である。

光村は、その後の展開が想像できるように、結末の書かれていない教材を多く掲載しているところに特徴が見られた。

各教材の終わりには、「考えよう」「つなげよう」が設けられていて、「どうしてでしょう」とか、「どんなことを考えたでしょう」のように、いろいろな意見を導き出すような設問になっている。

特に、「あなたなら、何と答えますか」という設問は、自分自身の問題と捉え、向き合う、「考える道徳」につながり、さらに、友だちの考えを知りたいと思うような、議論する道徳につながる よい問いかけ方である。

教材の内容という観点。5年で子どもの権利条約、6年で世界人権宣言を取り上げていた。

人権感覚を養うことができるとともに、グローバルスタンダードにつながる見方を育てることができる。

人権宣言、権利条約と自分の生活との関連を考えるという意味では、道徳教育の価値の高いものだと感じた。これから国際社会に生きていくであろう子どもたちにとって、ふさわしい内容である。

学校生活の実態に合った内容が非常に多い。

例えば、1年で、挨拶、あさがお、ありがとうを大切にしよう、夏休み前に、など、学校生活や学校行事を考慮した内容が配置されている。

季節感があり、子どもたちが自分ごととして考えやすい。

全学年にわたって系統的に配列されている。目次には、学習のまとめや学ぶ時期に配慮されていて、編修の意図を先生に伝えている部分である。

途中には4回の学びの記録が配列されている。学期に1回ということではなくて、9月に振り返りをするなど、学びの流れを意識しているように感じる。

学びの記録は、子どもの見とりや教師の見とり、自己評価につながる部分であり、工夫を感じた。

近年低学年のうちから学校でも家庭でもSNSについて問題になっていることから、授業の中で扱ってもらえるとありがたいと感じている。

情報モラルについて。低学年では、きまりを守ることや人の作ったものを大切にするということ、情報モラルを考えるうえでの基本を学び、考える内容になっている。

中学年では、自分自身や友達との関係を考える内容。

高学年では、著作権、肖像権、プライバシーの権利などについても考える内容になっている。

各学年に応じた内容で、学習しながら知識を増やして深く学べるよう工夫されている。

教科書の内容に関連する本の紹介が、様々出されている。道徳は一時間の授業で終わるものではなく、そこから引き続いて他の教科や生活の中と関連して考えていくものである。

関連本の紹介は、道徳で学んだことを継続して考えたり、多様な切り口で見たりすることができるようになる。

例えば3年「友だちっていいね」では、複数の友達に関することが書かれた絵本や読み物の紹介があり、いろいろな方向から友達について考えられる構成となっている。

全学年ではないが、夏休みや冬休みに調べてみようというコーナーがあり、道徳での学習に関連するような本の紹介もあった。このことによって家庭との連携もはかれるのではないかなと思う。

一つの授業で終わるのではなく、そこから発想を広げ、様々な方向へつなげる学習が必要ではないかなと思った。

◇光村図書出版

観点② 構成・分量・装丁、表記・表現

保護者の意見としては、本のサイズとしてはB5サイズは子どもが持ちやすい。

低学年で絵や写真の中に障がいのある子どもたちの絵が入っており、身近に感じられるのではないかと感じた。

文章も適当な長さであり、みんなが考えられるような形になっているのがよい。

巻末にお友達とどのように付き合ったらいいかというようなヒントが書いてあり、集団生活に入ったばかりの子どもたちにとっては、ちょっとしたヒントになるのではないかと感じた。

入学した1年生が初めて目にする教科書でその教科のイメージが決まるというぐらい、1年生の最初は大事な時期だと思っている。各者とも最初は素敵な、興味をひくような写真や絵を使っている。

光村図書は、挿絵に描かれている人物が、車いすを使っている人が載っていたり、そのほかにも、様々な学年の子どもや、子どもを抱っこして通勤するお父さんの姿、外国籍の子どもたちなど、多様な人々が描かれていて、人権感覚を身につけるうえでも、配慮されていると思った。

書くことを十分に学習していない入門期の子どもたちにとって、1年の第5教材までが絵を中心としたつくりになっており、絵を中心にして考えを引き出すような作りは、1年生の段階に適している。

落ち着いた色調の挿絵で、自分自身を絵の中に投影させたり、登場人物になりきったりして、じっくりと考えることができそうだと感じる。

色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。

特別支援教育の有識者が校閲に入っているとうたわれていて、改行の工夫や読みやすい字体など、表記に配慮が感じられる。

唯一のB5サイズであり、手にとりやすく小さい手にも持ちやすい大きさである。

挿絵と写真と文章のバランスが良いので、B5サイズと小さいが、バランスを取ることでページ数をおさえている。

本文の用紙も優しいトーンで紙の質もやわらかいのでめくりやすく、このことも手になじみやすいと感じる。

観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連

◇日本文教出版

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点
道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考える工夫として、各学年に5つほど「心のベンチ」というページを設けている。
「あいさつランド」や「友達のよいところさがしビンゴゲーム」のように、ゲーム的要素を取り入れたつくりで、楽しみながら、体験的に考えを深めたり、写真やグラフなどの資料を示して、子どもたちの気づきや考えをさらに深めることができたりするようになっているのが良いと思う。
別冊で道徳ノートがついている。全ての教材に適したページで構成されていて、1, 2年生はマス目、3年生以上は縦罫ということで、発達段階に合わせ工夫され、書きやすくなっている。
ノートに各々が考えを記していくことで、自分自身の考えが深まるとともに、学びの積み重ねや成長を実感できるのではないかと考える。
教師も一人ひとりの児童の学習状況や成長の状況、学びの様子をきちんと把握するための一つの手立てとすることが可能であると考えられる。
自分の考えだけでなく友だちの考えを書くスペースもあり、友達の考えをしっかりと知って大切にしようという考えにつながり、様々な考え方があることに気づくこともできると考える。
自己を見つめるとともに、多面的・多角的に考えるという視点において配慮がされている。
道徳の授業では、価値観を押しつけず、物事を多面的・多角的に考え、深めることが大切である。
学びの手引きのようなものは、どの先生も一定レベルの授業をするには便利な反面、逆に誰がやっても同じ授業になってしまうというリスクもあるが、読みものと別冊になっているので、教師の力量や考え方に応じて使い分けがしやすいと感じる。
情報モラルを扱った内容について。母の携帯電話を借りてメールをしてみたらし生活リズムがくるってしまったというものや、他の人の詩集を真似してしまったことを悔やんでいる主人公と、それに対応する大人の話など取り上げられている。
観点② 構成・分量・装丁、表記・表現
色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。
すべての教材について見開きの右ページから始まるように構成している。
昨今、注意がそれやすい子、集中しにくい子への配慮ということで、教室環境などでも余分な刺激を排除するといった配慮がなされているが、教科書についてもこの配慮は有効であると思われる。
縦がB5サイズで横は少し長いが、比較的コンパクトになっている。
イラストと文章の流れの中に適切にイラストが差し込まれ、見やすい。学年ごとに文章と挿絵のバランスが工夫されている。そのサイズを十分に利用している。
付属のノートは、低学年の子どもたちには重たいと思われた。
作文が苦手な子どもにとって、マス目のたくさんあるノートを見ただけで、道徳はこんなに書かなくてはならないのかという先入観をもってしまわないか懸念がある。
観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
保護者として学年を問わず話題になるのが、情報モラルやいじめの話題である。
情報モラルについては1年生からわかりやすく、年をおうごとに情報が載っているのがよい。
6年の「情報モラルの達人チェックシート」はゲーム性があり、子どもも取り組みやすく、自分がどの位置にいるかもわかりやすくて、取り入れやすいのではないかと感じる。

◇光文書院

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点

考え、議論する学習に導くという観点で比べると、光文が優れていると考える。

6年の4ページに「道徳の時間はこんな時間です」という明確なまとめがあり、考え方として「問いを持つ」「(個人で)考える」「話し合う」「(個人で)まとめる」という流れを整理し、学習の仕方をきちんと提示している。これが児童にとってもわかりやすく学ぶ価値があると考えた。

また、「やってみる」という課題設定がされている。押しつけがましくなく、そこでどんなことができますか、と各教材に提示されている。

例えば、6年「ナイスリターン」では、サンプルを提示した後に、場面設定をして児童が考え論議する学習をうまくリードできる構成の工夫がある。

課題設定が、「～について考えましょう」「～について考えたことを話し合いましょう」「～についてやってみよう」「～について調べて発表しよう」という4パターンの中から、各題材に適した2つを提示している。

題材を生かし、学級や児童の実態や状況を踏まえて教員が工夫をして展開を考えていくことに適した教科書である。

教科書の下段に「投げかけ」が配置されていて、つぶやきのような投げかけがされている。様々な価値を考えることができるよう工夫されている。

その内容も素朴な問いかけなので、主体的な問題解決のヒントとなるよう配慮されている。

考えさせたいことが本文の真下に出ているので、一度読んでもすぐそこに目が戻ってくるという配慮もされていて、見やすい。

全学年36以上の豊富な読みもの教材が用意されている。

地域や学校、学級の課題にあった、その時に応じた適切な時に適切な教材を選ぶことが可能である。

児童が自分のこととして考えやすくなり、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉えること、考えることにつながる道徳の授業が進められるのではないかと考える。

光文では、各学年で育てたい道徳的な判断力・心情・態度等について、関連する資料には「重点課題」として、分かりやすいマークが付けられており、複数の資料を続けて学習することで、より深く考えさせ、理解を深められるように工夫されている点で優れている。

情報モラルについて、コラムとして扱っている。5年では掲示板での書き込みによる不安な気持ちや、6年ではスマートフォンと上手につきあうための、プラス面とマイナス面を考えるきっかけにすることができる。

観点② 構成・分量・装丁、表記・表現

色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。

すべての教材について見開きの右ページから始まるように構成している。

昨今、注意がそれやすい子、集中しにくい子への配慮ということで、教室環境などでも余分な刺激を排除するといった配慮がなされているが、教科書についてもこの配慮は有効であると思われる。

子どもたちが議論したり考えを深めたりするのに、挿絵や写真の影響は大きい。微かなさじ加減で読みものの捉え方や意見が違ってくることも考えられるので、どの者もその点工夫が感じられる。

特に光文についてはその分量、配分が適切であると感じた。

見開いた時の文章量と写真の配置が工夫されていて、読みやすく、子どもたちにとっても学習の時間配分や展開に迫っていくという観点でもバランスがよい。

◇光文書院

観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連

神奈川県内でもポルトガル語やスペイン語を母語とする外国籍児童が多いという本市の特徴と照らし合わせたとき、光文書院の教材は、本市にゆかりの深い国々を扱っていると思う。

例えば、2年「ジョゼくんとおりがみ」という教材は、ブラジルから来たクラスメートとの交流が描かれている。

いろいろな国の言葉を紹介するページには、中国語・英語に加えて、スペイン語・ポルトガル語・韓国語を取り上げていることも、本市の児童には身近なところから国際理解、国際交流を考えるきっかけになると感じた。

神奈川県は、全国で2番目に外国籍児童が多い都道府県であり、本校にも国際教室が設置されており、低学年にも外国籍児童が在籍している。多国籍の児童と一緒に学ぶという点でも、道徳においても国際理解の視点は大変重要であると考えている。

1年で、外国の子どもとの関わりに関する教材が入っており、藤沢の子どもたちが1年生から外国の児童との関わりについて考えることができるというのは、大変よいことだと感じる。

本市ゆかりのある人物という観点では、4年「16番目の代表選手」は、北京オリンピックで金メダルを取った女子ソフトボールチームの話(他2者でもこのチームの話は扱っているが)で、この時の代表選手には、本市御所見地区出身の山田恵理選手がいる。今でも青少協のイベントに呼ばれて参加してくれていたり、2020東京オリンピックを目指す現役の選手である。本市の児童にとっても身近な先輩を扱った教材ということで、とても適していると感じている。

東京オリンピック関連で、3年生のコラムに1964年の東京オリンピックの江の島ヨット競技に関する内容がある。

◇学研教育みらい

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点
教科書の題材の内容を受け、「やってみよう」「広げよう」「深めよう」「つなげよう」という4種類の学び方が示されている。 多様な学習展開を子どもたちや教員が行いやすく、考え、議論する内容構成となっているといえる。 どの学年にも、はじめにプロフィールを書く欄があり、一年前の自分と比べてみようという投げかけも示されている。去年の自分と今の自分を比較し、今の自分を見つめ、学びを進めていくきっかけとなるいいページである。 最後に「考えよう」というページがあるが、発問が2つに絞られている。先生が児童の実態に合わせて題材について深めていくには、よい構成である。 資料の内容は、日常生活から想像しやすいものである。登場人物が児童と同世代であり、児童が共感でき、自分のこととして考えやすくなっている。 児童の揺れ動きやすい心を刺激して、自己肯定感を持たせる身近な事柄を取り上げることで、深く考えさせる内容となっている。 その内容は多岐にわたっているので、様々なことを多面的に捉えることができる工夫がなされている。
他者と違い、それぞれの教材の前に主題名や問いかけが入っていない。 そのため、児童は先入観や特定の価値観をもつことなく、教材に入ることができ、自らの問題意識を育てていくことができると考える。議論しやすい工夫がなされているので、適していると考ええる。
いじめ防止対策推進法の観点を取り入れて、全学年で「いのちの教育」を最重点テーマとして取り上げている。 学年の発達段階に応じて3つの教材を取り上げている。自分自身、友達の命を大切にしよう、お互いを尊重しようという日々の生活の中で子どもたちに大切にしてほしいことについて、考えることができる様々な教材が取り上げられているところがよい。 自立した一人ひとりの人間として、たくましく生きる力、多様性を尊重し、認め合う思いやる力も育むことができる教科書である。
観点② 構成・分量・装丁、表記・表現
色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。 すべての教材について見開きの右ページから始まるように構成している。 昨今、注意がそれやすい子、集中しにくい子への配慮ということで、教室環境などでも余分な刺激を排除するといった配慮がなされているが、教科書についてもこの配慮は有効であると思われる。 一つの教材の分量について、心情を扱った読み物教材は長い分量、考え、議論につなげる教材は短い分量、というように、テーマに応じて分量を適切に配分している。
表記や表現については、どの者も学年段階に応じた配慮がなされているが、学研は、比較的文字が大きく読みやすい点、また紙面構成などが視覚的に捉えやすい点に好感が持てた。 難しい言葉の注釈や読みやすい言葉への言い換えなど、発達段階に応じて丁寧に扱っていると感じた。
観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連
神奈川県は、全国で2番目に外国籍児童が多い都道府県であり、本校にも国際教室が設置されており、低学年にも外国籍児童が在籍している。多国籍の児童と一緒に学ぶという点でも、道徳においても国際理解の視点は大変重要であると考えている。 1年で、外国の子どもとの関わりに関する教材が入っており、藤沢の子どもたちが1年生から外国の児童との関わりについて考えることができるというのは、大変よいことだと感じる。

◇廣濟堂あかつき

観点① 編修の趣旨と工夫、学習指導要領との関連、内容、「特別の教科 道徳」に係る観点

別冊のノートがついている。

道徳的価値が明確化されるように、内容項目別になっており、児童が見通しをもって自分自身の課題として向き合うことができるような構成になっている。

ノートを活用することで、一人ひとりが自分の考えを見つめて、友達の考え方を大切にすることにつながり、考える道徳、議論する道徳にもつながる可能性があると考ええる。

しかし、自分のことをたくさん考えて、思いがあっても、文章にすることが苦手という児童もいるので、書いておしまいせず、目の前の子どもを見つめてよく話を聞くなど、一人ひとりの子どもに寄り添った配慮をしていくことが大切だと考える。

道徳の授業では、価値観を押しつけず、物事を多面的・多角的に考え、深めることが大切である。

学びの手引きのようなものは、どの先生も一定レベルの授業をするには便利な反面、逆に誰がやっても同じ授業になってしまうというリスクもあるが、読みものと別冊になっているので、教師の力量や考え方に応じて使い分けがしやすいと感じる。

観点② 構成・分量・装丁、表記・表現

色覚の違いを意識した編修、カラーユニバーサルデザインについてはどの発行者も配慮していた。

付属のノートは、低学年の子どもたちには重たいと思われた。

作文が苦手な子どもにとって、マス目のたくさんあるノートを見ただけで、道徳はこんなに書かなくてはならないのかという先入観をもってしまわないか懸念がある。

観点③ 本市の児童の実態や地域等の特性との関連

東京オリンピック関連で、4年に「人間愛の金メダル」という1964年の東京オリンピックの江ノ島ヨット競技に関する教材がある。